

第3グループ【環境・リサイクル分野】

みなとタウンフォーラム・第3グループ 環境・リサイクル分野

令和2(2020)年3月23日

みなとタウンフォーラム第3グループ [メンバー]

加生 武秀	加生 美佐保	高木 是
中井 耕治	半澤 千佳子	湯原 信一

※メンバーは五十音順



提言にあたって

第3グループ【環境・リサイクル分野】

私たち第3グループは、環境・リサイクル分野について、これまでの港区の環境行政や環境を取り巻く社会の動向等を踏まえ、「ごみ問題・資源循環」、「緑と水辺の保全・創出」、「気候変動への適応」の3テーマについて、全8回のグループ会議を開催し、事業提言について議論を重ねてきました。

「ごみ問題・資源循環」については、近年世界的に注目を集めている海洋プラスチックごみ問題や、令和元年10月に施行された食品ロス削減推進法、令和2年7月から実施されるレジ袋完全有料化など、区民にとっても非常に関心の高い、生活に密着したテーマです。区民、事業者に加え、国内外から多くの方が訪れる港区において、全ての人が“分かりやすく、取り組みやすい”ごみの減量、分別、資源化の方策を議論しました。

「緑と水辺の保全・創出」については、都市における暮らしの豊かさ、心地良さの向上に資する緑や水辺を、区民にとって“より身近に、より充実したものにする”ための方策について議論しました。

「気候変動への適応」については、平成30年6月に気候変動適応法が公布され、国の気候変動適応計画が策定されたことを受け

て、港区においても、従来から取り組んでいる緩和策に加えて、適応策にも取り組むことが重要であると考えます。そこで、適応に関する7分野のうち、区民、事業者にとってより身近な、自然災害、安全、都市生活の分野について、“ソフト面／ハード面からの備え”を議論しました。

港区は、国内だけでなく、世界からも注目される日本を代表する都市の一つであり、裏返せば、宣伝・プロモーション効果が非常に高いと言えます。港区における取組は、区民、事業者の暮らしを変えるだけでなく、国内外の暮らしや事業活動にも大きな影響を与えることが期待できます。

これを踏まえ、昨今地球レベルで大きな課題・取組となっている持続可能な開発目標「SDGs」に掲げられたゴール（特に、No.7,11,12,13,14,15,17）の達成への貢献を意識しながら議論を進め、第3グループの提言として取りまとめました。

この提言が、令和3（2021）年度からの次期港区基本計画に反映され、港区が、環境面だけでなく、社会面、経済面からも持続可能なまちとなる重要な分岐点（ターニングポイント）となることを期待します。

提言の体系

テーマ・将来像	取組の方向性	具体的な事業
テーマ1 ごみ問題・資源循環 「分かりやすい分別でごみが減るみなとの資源循環」		
減らす	(1)事業系ごみの更なる削減に取り組む	①事業系ごみ削減の促進 ②食品ロス削減の推進
	(2)プラスチックと上手に付き合う文化を醸成する	③プラスチック使用の削減◎
	(3)家庭系ごみを減らす意識を向上させる	④家庭系ごみ削減の促進
分別する	(4)分別方法をより分かりやすくする	⑤ごみ分別の分かりやすさの向上◎
	(5)「つくる」段階から「分ける」を意識する	⑥消費者のごみ分別を第一に考えた商品・容器の製造
資源化する	(6)リユース家具の取組を進化させる	⑦リユース家具の取組強化
	(7)リユース・リサイクルをもっと身近にする	⑧まちなかりユーススペースの設置
		⑨資源回収機会の増加
テーマ2 緑と水辺の保全・創出 「心地良さや豊かさを感じられるみなとの緑と水辺」		
人にも生きものにもやさしい“緑”を育む	(1)区内の様々な場所で緑を増やす	①まちの緑化推進◎
	(2)区民・事業者・区が一体となって緑を守り、育てる	②区民・事業者との連携・協働による緑の管理体制の構築
	(3)生物多様性を保全する	③生物多様性の保全
みなとの“水辺”と親しむ	(4)水辺の散歩道等を活用して水に親しめる機会をつくる（親水環境を向上する）	④親水エリアの設定・構築運用◎
	(5)「泳げる海、お台場」を実現する	⑤「泳げる海、お台場」の推進
	(6)水の健全な循環をつくる	⑥雨水浸透施設の整備

第1グループ
【街づくり分野】

第2グループ
【防災・生活安全分野】

第3グループ
【環境・リサイクル分野】

第4グループ
【地域コミュニティ分野】

第5グループ
【国際化・文化分野】

第6グループ
【産業・観光分野】

第7グループ
【子育て・教育分野】

第8グループ
【生涯学習・スポーツ分野】

第9グループ
【福祉・保健分野】

テーマ・将来像	取組の方向性	具体的な事業
テーマ3 気候変動への適応 「気候変動に合わせた暮らしを実現するみなとの人とまち」		
気候変動に備える意識を高める（ソフト面）	(1)気候変動と適応策に関する区民の理解を深め、適応力を高める	①気候変動に関する調査と適応策の検討、情報発信
	(2)これまで経験したことのない大雨等の災害に備える	②行動につながる、使いやすいハザードマップへの更新
	(3)熱中症リスクの高まりを意識し、適切な適応策を選択できる力をつける	③区内における暑さ指数の計測・情報発信◎ ④熱中症対策に関する情報発信の充実 ⑤高齢者の熱中症死亡リスクの軽減
気候変動に耐える都市環境をつくる（ハード面）	(4)「風／水／緑」を利用してまちを涼しくする	⑥運河の水等を利用したクールチャンネルストリートの整備 ⑦緑のアーケードの整備
	(5)取組効果を検証し、区内外に適応策の情報を発信する	⑧「みなとクールスポット」の整備、効果検証◎

◎印のついた事業は、優先的・重点的に取り組んでいただきたい事業です。

テーマ① ごみ問題・資源循環

第1グループ
【街づくり分野】

第2グループ
【防災・生活安全分野】

第3グループ
【環境・リサイクル分野】

第4グループ
【地域コミュニティ分野】

第5グループ
【国際化・文化分野】

第6グループ
【産業・観光分野】

第7グループ
【子育て・教育分野】

第8グループ
【生涯学習・スポーツ分野】

第9グループ
【福祉・保健分野】

計画最終年度末(令和8年度末)における港区の将来像

分かりやすい分別でごみが減るみなとの資源循環

- 区民だけでなく、在勤者や在学生、国内外からの多くの来街者など、多様な人が集う港区において、誰もが分かりやすく、取り組みやすいごみ減量と資源循環システムを追求し、一人ひとりの環境意識を向上させ、環境負荷の少ない持続可能なまちを実現する。

実現に向けた課題

- 海洋プラスチックごみによる海洋汚染の認識が薄く、プラスチック製品との付き合い方を考える必要がある。
- 家庭系ごみの更なる削減に向け、^{ちゅうかいるい}厨芥類のごみを減らす必要がある。
- ごみの適切で確実な分別ができていない。
- 来街者・観光客も多く、公共空間のごみ出し基準が分かりにくい。

取組の方向性

【減らす】

- 事業系ごみの更なる削減に取り組む。
- プラスチックと上手に付き合う文化を醸成する。
- 家庭系ごみを減らす意識を向上させる。

【分別する】

- 分別方法をより分かりやすくする。
- 「つくる」段階から「分ける」を意識する。

【資源化する】

- リユース家具の取組を進化させる。
- リユース・リサイクルをもっと身近にする。

具体的な事業

【減らす】

①事業系ごみ削減の促進(1)

- 事業系ごみの削減に関する優良事例を収集し、様々な媒体を活用するなどして、事業者への情報提供を更に充実・強化する。

②食品ロス削減の推進(1)

- 食品ロス削減のため、「食べきり協力店」のPRの更なる強化につながる手法を検討する。

③プラスチック使用の削減(2)

- 区民のマイボトル利用促進に向け、ペットボトルの自動販売機を削減し、公共施設へのウォータースタンド等の給水器の設置を推進する。
- 区民向けセミナー・勉強会の開催を継続し、海洋プラスチックごみ問題やその発生要因・生物への影響等を区民に情報提供する。

④家庭系ごみ削減の促進(3)

- ごみ排出袋の有料化を検討する。
- 3キリ運動の効果検証を行い、検証結果を踏まえた取組を推進する。
- 分別の際に留意すべきこと（資源プラスチックは汚れを落としてください等）について周知する。

【分別する】

⑤ごみ分別の分かりやすさの向上(4)

- 区有施設に設置しているごみ箱の種類、デザイン、色の統一（例 オリンピックカラー：可燃＝赤、不燃＝黒、PET＝緑、資源プラ＝橙、かん＝青、びん＝黄）、ピクトグラムを表示など、分かりやすさの向上を図る。
- 商業施設やその他民間施設のごみ分別にも取組を広める。

⑥消費者のごみ分別を第一に考えた商品・容器の製造(5)

- スーパーや食品等製造業者と情報を共有し、消費者のごみ分別を第一に考えた商品・容器の製造や取組について、国等に対して要望する。

【資源化する】

⑦リユース家具の取組強化(6)

- 様々な情報媒体を活用し、リユース家具の取組をPRする。

⑧まちなかりユーススペースの設置(7)

- リユースを促進するため、図書館や保育園の施設内に「ブックシェア本棚」や「おもちゃシェアボックス」を設置する。
- 町会・自治会等のリユース活動を積極的に支援する。

⑨資源回収機会の増加(7)

- 資源を持ち込める場所や機会の増加について、引き続き検討する。
- 港区資源化センターの取組について、YouTube等の多様な手法で発信する。

参画と協働の推進(区民等の事業への携わり方)

【減らす】

- ウォータースタンド等の給水器を利用する。
- 食べきり協力店を積極的に利用する。

【分別する】

- 分かりやすいデザイン、色、ピクトグラムを用いたごみ分別の港区ルールを行政と一緒に検討・作成し、区内に広く普及させ、分別を徹底する。
- 消費者のごみ分別を第一に考えた商品・容器を製造する(使用する)。

【資源化する】

- 「家具のリサイクル展」を積極的に活用する。
- 不要になった本やおもちゃのリユース活動に参加・協力する。

テーマ② 緑と水辺の保全・創出

計画最終年度末(令和8年度末)における港区の将来像

心地良さや豊かさを感じられるみなとの緑と水辺

- 人にも生きものにもやさしい緑や、水辺の散歩道、「泳げる海、お台場」を区民みんなでつくり、育むことで、生物多様性を実現し、暮らしの中に心地良さや豊かさを感じられ、訪れたい、住みたい／住み続けたいと思われる持続可能なまちを実現する。

実現に向けた課題

- マンションの屋上緑化は進まず、壁面・ベランダ緑化は普及していない。
- 道路に緑陰が少なく、舗装も透水性舗装でないため、非常に暑い。
- ビオトープには外来生物が繁殖し、適切に維持管理されていない。
- 生物多様性、エコロジカルネットワークの効果が分かりにくい。
- 水辺の散歩道は夏暑く、散歩しづらい。お年寄りや子どもが利用できない。
- お台場や運河の水質が向上していない。

取組の方向性

【人にも生きものにもやさしい“緑”を育む】

- (1) 区内の様々な場所で緑を増やす。
- (2) 区民・事業者・区が一体となって緑を守り、育てる。
- (3) 生物多様性を保全する。

【みなとの“水辺”と親しむ】

- (4) 水辺の散歩道等を活用して水に親しめる機会をつくる（親水環境を向上する）。
- (5) 「泳げる海、お台場」を実現する。
- (6) 水の健全な循環をつくる。

具体的な事業

【人にも生きものにもやさしい“緑”を育む】

①まちの緑化推進(1)

- 道路や橋の緑化、学校のグラウンドの芝生化など、まちの様々な場所での緑化を推進する。
- 「ベランダ緑化ガイドライン」を作成し、緑化の基本パターンを検討・紹介して、普及啓発を図る。
- 「港区民間事業所・住宅設備等の環境配慮ガイドライン」を作成する。
- 夏季に緑陰を形成するよう、街路樹の適切な管理、新規植栽を行う。
- 高齢者が夏季に公園を散歩できるよう、ベンチやミスト、日よけとなる樹木を増やす。

②区民・事業者との連携・協働による緑の管理体制の構築(2)

- 植樹、メンテナンスを地域の人々が取り組めるよう、機会の提供や費用助成を行う。
- 区が設置した緑やオープンスペース、ビオトープなどを区民が管理・活用する仕組みをつくる。

③生物多様性の保全(3)

- 生物多様性やエコロジカルネットワークの現状や効果などを検証し、分かりやすく示す。
- 国等と連携して調査を実施し、ヒアリの拡散を阻止するための対策を実施する。
- 他の自治体（三多摩をはじめとした国内外）と連携して環境教育を推進する。

【みなとの“水辺”と親しむ】

④親水エリアの設定・構築運用(4)

- 水に親しめるモデル地区、パイロットエリアを設定し、親水公園を整備するなど、きれいな水に親しめる環境をつくる。
- スイングチェアやアスレチック、日よけを設置するなど、水辺で水と親しむ仕掛けを設けるとともに、水浄化装置を設置し、環境教育に活用する。
- 湧水の活用について検討する。

⑤「泳げる海、お台場」の推進(5)

- 運河に水浄化設備を設ける、お台場の海底のヘドロをきれいな砂と入れ替える、雨水等を吐き出すタイミングでお台場を海水フィルターで覆う運用とするなど、水質改善に向けて東京都に要請・提案を行う。
- 東京都と協議し、お台場を海水浴場としてオープンする日程を定め、これに向けた具体的な対策を立案し、進捗監視を行う体制を構築する。

⑥雨水浸透施設の整備(6)

- 公園や既存の建物・敷地の中庭等への雨水浸透施設の設置を促進する。
- 都市型浸水の防止のため、公園を雨水浸透型に変える。

参画と協働の推進(区民等の事業への携わり方)

【人にも生きものにもやさしい“緑”を育む】

- ガイドラインを踏まえ、自宅や事業所等での緑化に取り組む。
- 行政との協働による公園緑化、外来種対策、生物多様性保全等の活動を行う。

【みなとの“水辺”と親しむ】

- 住民組織と行政が連携して、水辺の散歩道の清掃・維持活動を行う。
- 港区・東京都・住民連携組織共同で、お台場海水浴場推進協議会を設置する。

テーマ③ 気候変動への適応

計画最終年度末(令和8年度末)における港区の将来像

気候変動に合わせた暮らしを実現するみなとの人とまち

- 区民の気候変動に備える意識と知識を高めるとともに、自然を活かして気候変動に耐えうる都市環境をつくることにより、安全・安心、快適に暮らすことができる持続可能なまちを実現する。

実現に向けた課題

- 現状及び今後予想される気候変動の影響を把握しきれていない。
- 気候変動により、真夏の生活面でのリスクが増大しているにも関わらず、適応策が普及していない。
- 気候変動リスクが正しく認識されておらず、防災や熱中症に対する適切な対策が取られていない。
- 真夏は暑すぎて外出できず、子どもたちも外遊びができない。
- 港区の宣伝・プロモーション効果を最大限活用すべきである。

取組の方向性

【気候変動に備える意識を高める（ソフト面の備え）】

- (1) 気候変動と適応策に関する理解を深め、適応力を高める。
- (2) これまでに経験したことのない大雨等の災害に備える。
- (3) 熱中症リスクの高まりを認識し、適切な適応策を選択できる力をつける。

【気候変動に耐えうる都市環境をつくる（ハード面の備え）】

- (4) 「風／水／緑」を利用してまちを涼しくする。
- (5) 取組効果を検証し、区内外に適応策の情報を発信する。

具体的な事業

【気候変動に備える意識を高める（ソフト面の備え）】

①気候変動に関する調査と適応策の検討、情報発信(1)

- 現状及び今後予想される気候変動を調査・整理するとともに、適切な適応策について情報収集・検討する。その上で、こうした内容を情報発信し、区民の理解を深め、気候変動に備える意識を醸成する。
- 気候変動や日頃から取り組める適応策に関する講演会・勉強会を開催する。

②行動につながる、使いやすいハザードマップへの更新(2)

- 区民や防災組織等と連携し、経験したことがない大雨等の災害時に正しい行動がとれるよう、平易な言葉を使い、分かりやすいハザードマップへと更新・充実を図る。

③区内における暑さ指数の計測・情報発信(3)

- 区内各所（公園、通り、クールスポット等）で暑さ指数（WBGT）を計測し、安全・危険などの程度を分かりやすく情報発信する。

④熱中症対策に関する情報発信の充実(3)

- 真夏の屋内外での安全・快適な過ごし方等を紹介するガイドブックを作成
- 配布し、情報発信する。

⑤高齢者の熱中症死亡リスクの軽減(3)

- 既存の緊急通報システムに温度計を追加したり、セキュリティ会社等と連携したりして、高齢者の屋内での熱中症死亡対策を強化する。

【気候変動に耐えうる都市環境をつくる（ハード面の備え）】

⑥ 運河の水等を利用したクールチャネルストリートの整備（4）

- 雨水や地下水、浄化した運河の水を利用して、散水だけでなく、舗装面に水を流す（NYハイラインのように）など、歩行空間をクールダウンする工夫をして、真夏でも安全・快適に歩行できる空間を整備する。

⑦ 緑のアーケードの整備（4）

- 公園や歩道等に藤棚のような緑のアーケードを整備して、日射を遮断して涼しく感じられる空間を創出する。

⑧ 「みなとクールスポット」の整備、効果検証（4）（5）

- 公園等の公共空間において、大学等と連携して「風／水／緑」を組み合わせた「みなとクールスポット」を実証実験的に整備する。その他、地下水循環型ベンチや地中熱自然冷房の設置を検討する。その際、区民や観光客に体感してもらうとともに、数値的に効果検証を行う。
- 「みなとクールスポット」の実証実験結果を全国に情報発信する。

参画と協働の推進（区民等の事業への携わり方）

【気候変動に備える意識を高める（ソフト面の備え）】

- 気候変動や適応策に関心を持ち、積極的に情報収集するとともに、周りにも働きかける（情報発信する）。
- ハザードマップを活用し、災害発生時に適切な行動がとれるよう、地域でシミュレーション等を行い、地区防災計画を立案し、区に提案する。
- 打ち水や緑化などのイベント・取組に積極的に協力する。

【気候変動に耐えうる都市環境をつくる（ハード面の備え）】

- SNS等を活用し、港区の取組を情報発信する（多言語）。
- 区が大学や研究機関と連携して実施するみなとクールスポットの整備や効果検証に参画する。

開催経過

第3グループ【環境・リサイクル分野】

回数	開催日時	内容
第1回	令和元年9月30日(月) 18:30~20:30	<ul style="list-style-type: none">・事務局紹介・グループ会議の進め方について・分野における現状と課題について・リーダー、サブリーダーの選出・検討テーマの選定
第2回	令和元年10月16日(水) 18:30~20:30	<ul style="list-style-type: none">・第1回グループ会議の振り返り・検討テーマ「ごみ問題・資源循環」について
第3回	令和元年10月28日(月) 18:30~20:30	<ul style="list-style-type: none">・第2回グループ会議の振り返り・検討テーマ「ごみ問題・資源循環」について
第4回	令和元年11月12日(火) 18:30~20:30	<ul style="list-style-type: none">・第3回グループ会議の振り返り・検討テーマ「緑と水辺の保全・創出」について
第5回	令和元年11月29日(金) 18:30~20:30	<ul style="list-style-type: none">・第4回グループ会議の振り返り・検討テーマ「緑と水辺の保全・創出」について
第6回	令和元年12月10日(火) 18:30~20:30	<ul style="list-style-type: none">・第5回グループ会議の振り返り・検討テーマ「気候変動への適応」について
第7回	令和元年12月24日(火) 18:30~20:30	<ul style="list-style-type: none">・第6回グループ会議の振り返り・検討テーマ「気候変動への適応」について
第8回	令和2年1月23日(木) 18:30~20:30	<ul style="list-style-type: none">・第7回グループ会議の振り返り・提言内容の確認について



みなとタウンフォーラム 第3グループ【環境・リサイクル分野】

提言書

<環境とSDGs 8つのゴール>

検討テーマと経過

全体会議

- 自己紹介

第1回グループ会議

- グループ会議の進め方の検討
- 現状と課題に関する意見交換
- リーダー、サブリーダーの選出
- 検討テーマの選定

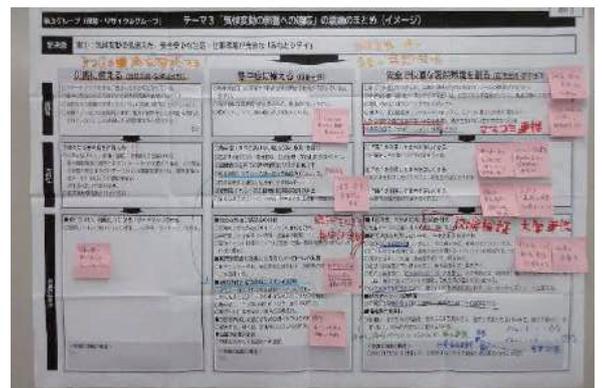
第2～7回グループ会議

- テーマ1 ごみ問題・資源循環
- テーマ2 緑と水辺の保全・創出
- テーマ3 気候変動への対応

第8回グループ会議

- 提言内容の確認

提言式



テーマ① ごみ問題・資源循環

▼将来像

分かりやすい分別でごみが減る

みなとの資源循環

▼取組の方向性

- 【減らす】 (1)事業系ごみの更なる削減に取り組む
(2)プラスチックと上手に付き合う文化を醸成する
(3)家庭系ごみを減らす意識を向上させる
- 【分別する】 (4)分別方法をより分かりやすくする
(5)「つくる」段階から「分ける」を意識する
- 【資源化する】 (6)リユース家具の取組を進化させる
(7)リユース・リサイクルをもっと身近にする

テーマ① ごみ問題・資源循環

▼具体的な提言内容



③ プラスチック使用の削減

- 区民の**マイボトル利用**促進に向け、ペットボトルの自動販売機を削減し、公共施設へのウォータースタンド等の給水器の設置を推進する。
- 区民向けセミナー・勉強会の開催を継続し、海洋プラスチックごみ問題やその発生要因・生物への影響等を**区民に情報提供**する。



サンフランシスコ空港の給水器

資料：(一社)産業環境管理協会 資源・リサイクル促進センターHP



東京国際フォーラムのボトルディスペンサー式水飲栓

資料：東京都HP



テーマ② 緑と水辺の保全・創出

▼将来像

心地良さや豊かさを感じられる

みなとの緑と水辺

▼取組の方向性

【人にも生きものにもやさしい“緑”を育む】

- (1)区内の様々な場所で緑を増やす
- (2)区民・事業者・区が一体となって緑を守り、育てる
- (3)生物多様性を保全する

【みなとの“水辺”と親しむ】

- (4)水辺の散歩道等を活用して、水に親しめる機会をつくる（親水環境を向上する）
- (5)「泳げる海、お台場」を実現する
- (6)水の健全な循環をつくる

テーマ② 緑と水辺の保全・創出

▼具体的な提言内容



④ 親水エリアの設定・構築運用

- 水に親しめるモデル地区、パイロットエリアを設定し、**親水公園**を整備するなど、きれいな水に親しめる環境をつくる。
- スイングチェアやアスレチック、**日よけ**を設置するなど、水辺で水と親しむ仕掛けを設けるとともに、水浄化装置を設置し、環境教育に活用する。
- 湧水の活用について検討する。



▲大阪・道頓堀川の水辺遊歩道「とんぼりリバーウォーク」▲



▲広島・京橋川「水辺のオープンカフェ」

資料：かわまちづくり支援制度HP

かわまちづくりの事例

テーマ③ 気候変動への対応

▼将来像

気候変動に合わせた暮らしを実現する みなとの人とまち

▼取組の方向性

【気候変動に備える意識を高める（ソフト面の備え）】

- (1)気候変動と適応策に関する理解を深め、適応力を高める
- (2)これまでに経験したことのない大雨等の災害に備える
- (3)熱中症リスクの高まりを認識し、適切な適応策を選択できる力をつける

【気候変動に耐えうる都市環境をつくる（ハード面の備え）】

- (4)「風／水／緑」を利用してまちを涼しくする
- (5)取組効果を検証し、区内外に適応策の情報を発信する

テーマ③ 気候変動への対応

▼具体的な提言内容



⑧「みなとクールスポット」の整備、効果検証

- 公園等の公共空間において、大学等と連携して「風／水／緑」を組み合わせた「みなとクールスポット」を実証実験的に整備する。その他、地下水循環型ベンチや地中熱自然冷房の設置を検討する。その際、区民や観光客に体感してもらうとともに、**数値的に効果検証**を行う。
- 「みなとクールスポット」の**実証実験結果を全国に情報発信**する。



ニューヨークのハイレイン



資料：PARKFUL HP、BIOCITY 81「社会を変えるクリエイティブソリューションズの現場」

提言にあたって

港区は、国内だけでなく、世界からも注目される日本を代表する都市の一つ



宣伝・プロモーション効果が非常に高い！



港区の取組は、区民、事業者だけでなく、^{もちろん} **好影響**

国内外の暮らしや事業活動にも大きな影響を与える
ことが期待できる！

この提言が、次期「港区基本計画」に反映され、
港区が**環境面だけでなく、社会面、経済面からも持続可能なまち**となる
重要な分岐点（ターニングポイント）となることを期待します。

環境とSDGs 8つのゴール

今、わたしたちが始めること
今、わたしたちにできること

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



みなとタウンフォーラム
環境・リサイクルグループ（第3グループ）

会議録（第1回）

■開催日時・場所・出席者

日 時：令和元年9月30日（月）18時30分～20時30分

会 場：港区役所9階 会議室

メンバー参加者：8名

事務局：対応部門関係課長3名（環境課長、地球温暖化対策担当課長、みなとりサイクル清掃事務所長）、企画課グループ担当1名、サポートメンバー1名、委託事業者1名

■次第

（開会）

- 1 事務局紹介
- 2 グループ会議の進め方について
- 3 分野における現状と課題について
- 4 リーダー、サブリーダーの選出
- 5 検討テーマの選定
- 6 その他

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	事務局名簿
2	グループ会議の検討スケジュール
3	提言の構成について
4	グループ会議の進め方について
5	検討希望テーマ集計結果

■貸与資料

資料番号	資料名
1	港区基本計画・港区実施計画

■会議要旨

(開 会)

事務局より、第1回グループ会議開催にあたっての開会宣言を実施した。
リーダー、サブリーダーの選出まで、事務局が進行することを確認した。
配布資料について確認した。

1 事務局紹介

全体会欠席者を含むグループメンバーの自己紹介を実施した。
事務局より、資料1に基づき事務局メンバー紹介を実施した。

(主な意見等)

- 参加者：エネルギー関連の仕事をしており、港区に住んでいることもあって、何らか貢献できればと思い参加した。60歳を過ぎて退職するつもりでいたが、引き留められてまだ仕事をしており、どの程度参加できるか分からないが、頑張りたい。
- 参加者：前回もみなとタウンフォーラムに参加し、提言させていただき、充実感があつた。新たな環境問題として、海洋プラスチック問題がある。私たちの暮らしとプラスチックは切り離せない。私たちに何ができるのか、港区として何をすべきか、考えていきたい。
- 参加者：日々の暮らしの中で、ごみ問題やリサイクルの現状が気になっている。疑問を明らかにし、何か提言ができると良い。
- 参加者：国連の環境会議が開かれたが、次の世代の人が将来について不安を感じている。生活している中で、何か貢献できればと考えている。
- 参加者：防災に関する活動を行っているが、地球温暖化など環境分野とも大きく関連しており、より良い港区の実現に向けて頑張りたい。30年以上情報系の社会インフラ整備に関する仕事をしており、何かしら貢献できればと考えている。
- 参加者：芝 BeeBee's ではちみつを作り、ご近所ラボ新橋で地域交流を行い、港ガーデンストリートで花を道路に植えている。子どもの食育にも関心がある。

2 グループ会議の進め方について

事務局より、資料2～資料4に基づきグループ会議の検討スケジュール等について説明を行い、以下の内容を確認した。

(確認事項)

- ・第2回グループ会議は10月16日(水)18:30～とし、場所は事務局で確保して後日連絡する。
- ・第3回グループ会議は、第2回グループ会議の際に改めて日程調整する。
- ・第4回以降は、資料2に記載の日程での開催とする。必要に応じて日程調整する。
- ・検討テーマを3テーマ選定し、各テーマ2回を使って議論する。それぞれ1回目は現状と課題、将来像、取組の方向性について議論し、2回目に具体的な事業、参画と協働について議論する。
- ・グループワーク(議論)は模造紙・付箋紙を用いて行う。ただし、途中メモしたりできるようにホワイトボードも用意する。

(主な意見等)

参加者：予算面も考慮する必要がある。実現不可能な提言をしても意味がない。概算でどれくらいかかるのか、調べてもらう必要があるかもしれない。

事務局：区としても実現可能な提言をいただくと良いと考えているので、情報交換しながら進めていけると良い。

参加者：前回の提言の中で、法律に抵触するため実現できないというものがあった。参加者も知っておく必要はあるが、提言時に確認してもらえると良い。他にも既に実施しているものもあった。これも無駄である。

事務局：既に実施している内容かどうか、確認しながら行っていきたい。

参加者：進め方について、模造紙を用いて行うということで良いが、途中で意見を書き出ししたりするために、ホワイトボードもあると良い。

参加者：付箋紙だと意見をまとめやすいので良いと思う。ただし、まとめていく段階で、不要な付箋紙も出てくると思う。その際に、ホワイトボードを使えると良いと思う。両方使うのが良いのではないかな。

3 分野における現状と課題について

事務局より、「ごみ問題・資源循環」「緑や水辺の保全・再生」「環境保全・美化活動の推進」「環境負荷の少ない都心づくり」について、現状等の説明を実施した。

(主な意見等)

参加者：家具のリサイクル展は良い取組だと思う。

事務局：毎年1,300点~1,400点程度を販売している。引き取りも同程度であり、ほとんど全てがリサイクルできている。

参加者：プラスチック回収日が大雨でびしょ濡れになっていても資源化はできるのか。

事務局：それは問題ない。食べ残しがあったり、可燃ごみと一緒に分れできなかつたりすると、資源化が難しい。

参加者：家庭ではできる限り可燃ごみとプラスチックを分けるように心がけているが、屋外に設置されているごみ箱は可燃ごみだけであり、みんな一緒に捨てていると思う。その後どうなっているのか気になっている。

事務局：手作業で分別をしているので限界がある。

参加者：油がついたまま出すと資源化ができないのではと思い、意識している。

事務局：ある程度は汚れていても問題ない。神経質になりすぎると、負担になってしまう。

参加者：よく空き缶にたばこの吸い殻を入れているのを見るが、あれはきれいに分別できているのか。

事務局：灰皿のようにされているものは難しい。

参加者：5万tの可燃ごみの中に5千tプラスチックが入っているという説明であったが、それがなくなると温室効果ガスの削減目標が達成できるということか。

事務局：なくすと減っていくのは間違いないが、どの程度減っていくのかは宿題とさせていただきます。

事務局：可燃ごみ量を129,000tまで減らして、温室効果ガス排出量も10,000t-CO₂

まで減る計算になっているので、相当量減らす必要がある。プラスチックを資源にするだけでなく、可燃ごみ量も大きく減らす必要がある。

参加者：保護樹木は現在どれくらいあるのか。

事務局：指定本数は662本である。

参加者：港区は、施策はしっかりと立てるが、アピール・PRが上手くないと思う。

参加者：PRの面では民間の方が上手である。折に触れて、みなとたばこルールや指定喫煙場所について宣伝していけると良い。

参加者：基本計画110頁の、港区みどりの街づくり賞受賞施設はどこの写真か。

事務局：次回までに確認しておく。昨年度の受賞施設の資料があるので、良ければ次回配布させていただきます。

参加者：クールスポットは2か所くらい設置しているのか。

事務局：お台場と新橋、もう間もなく芝公園にも設置する予定である。

参加者：マラソンコースに設置しているわけではないのか。

事務局：マラソンコースについては、東京都主導で進めていると思うが、設置場所が難しい。企業で設置いただいているところはいくつかあると思う。

参加者：マラソンコース予定道路周辺の遮熱性舗装の推進は、区道だけか。

事務局：区道だけである。

参加者：話は戻るが、プラスチックと言っても色々な種類（素材）があるが、分類するのか。混ぜられていても問題ないのか。色も関係ないのか。

事務局：分類はしていない。色も関係ない。

4 リーダー、サブリーダーの選出

リーダー、サブリーダーの選出を実施し、以下の方に決定した。

リーダー：湯原 信一 氏	サブリーダー：加生 武秀 氏
--------------	----------------

5 検討テーマの選定

事務局より、資料5に基づきグループ会議検討希望テーマ集計結果を報告し、リーダーを中心とした議論を踏まえ、以下の3テーマに決定した。

テーマ1	ごみ問題・資源循環
テーマ2	緑や水辺の保全・創出
テーマ3	環境保全・美化活動の推進
※テーマ3については、各回の議論を踏まえて「環境保全」にどこまでの範囲を含めるかを検討・調整することとする。	

(主な意見等)

リーダー：今回は9グループあり、区長に直接提言内容を説明する時間も限られるため、テーマは多くて3つで進めていきたい。

サブリーダー：「ごみ問題・資源循環」「緑や水辺の保全・創出」「環境保全・美化活動の推進」がそれぞれ4票となっている。

参加者：例えば、「ごみ問題・資源循環」の中でも議論する内容は絞られると思う。

リーダー：テーマの中でも、議論の中で皆さんの関心が集まり、さらに区としても実現可能なものを提言していく必要がある。

参加者：「環境保全」は幅広く、地球温暖化対策やヒートアイランド対策まで入ると思う。2票だったこれらのテーマも含めて検討できると良いのではないかな。切り捨てるのではなく、幅広く議論できると良い。

リーダー：勉強しながら、中身の濃い提言を一緒に考えていきたい。幅広く知っていないと良い提言はできない。資料要求をすれば事務局も対応してくれる。

サブリーダー：事務局はご存じだが、港区緑と水の委員会というものがあり、その区民委員をやっている。基本計画と同様に、緑と水の総合計画も改定に向かっている。それぞれの計画で方向性が合えば良いと思う。

サブリーダー：目標の達成状況とテーマをクロスさせると、提言した方が良いところが見えてくるかもしれないので、データを整理いただきたい。

リーダー：前回の提言内容の実現状況も確認できると良い。

6 その他

第2回グループ会議は、テーマ1「ごみ問題・資源循環」の現状・課題、将来像、取組の方向性について議論することとし、10月16日（水）18:30～、開催場所は後日事務局から連絡することを確認した。また、第1回グループ会議の議事録を事前に送付すること、必要な資料等があれば概ね1週間前までに連絡いただくことを確認した。

（主な意見等）

事務局：先程質問のあった港区みどりの街づくり賞受賞施設は、トライセブンロッポンギである。

（閉会）

リーダーが、第1回グループ会議の閉会を告げ、終了した。

以上

みなとタウンフォーラム
環境・リサイクルグループ（第3グループ）

会議録（第2回）

■開催日時・場所・出席者

日 時：令和元年10月16日（水）18時30分～20時30分

会 場：港区役所5階 512会議室

メンバー参加者：5名

事務局：対応部門関係課長2名（環境課長、みなとリサイクル清掃事務所長）、企画課グループ担当
1名、サポートメンバー1名、委託事業者1名

■次第

（開会）

- 1 第1回グループ会議の振り返り
- 2 今後のグループ会議の進め方
- 3 テーマ1「ごみ問題・資源循環」に関する検討（前半）
- 4 その他

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	第2回グループ会議の目的とタイムスケジュール
2	第1回グループ会議 会議録
3	今後のグループ会議の進め方について
4	テーマ1「ごみ問題・資源循環」の関連資料

■貸与資料

資料番号	資料名
1	港区基本計画・港区実施計画

■会議要旨

(開 会)

事務局が、第2回グループ会議開催にあたっての挨拶及び開会宣言、配布資料の確認を行った。リーダーが欠席のため、サブリーダーが進行を務めることとなった。サブリーダーが資料1に基づき、第2回グループ会議の目的とタイムスケジュールの確認を行った。

(主な意見等)

参加者：会議録を見たが、説明者からの説明の後に質疑応答があるべきで、説明の途中に質疑応答というかやり取りがあるのはおかしい。説明は説明として聞いて、その後に質疑応答の時間を設けるようにしてほしい。

参加者：資料を色々用意いただいているが、当日配布ではみる時間がないので、できれば事前に送付いただきたい。

参加者：提言にあたって予算面も考慮する必要があるという発言があったが、参加者がそこまでする必要があるのか。参加者は必要な提言を行い、その辺りは区長と担当部局で考えれば良いことではないのか。なお、この発言も、質疑応答の時間ではなく、会話の途中にあったので聞き流していた。質疑応答の時間を設けてほしい。

事務局：資料については事前に送付できるようにする。提言については了解した。

参加者：話の途中で区切るのは同感である。1から10まで聞いていたら解決していたこともある。できる限り、説明者の説明を聞いてから質疑応答を行いたい。こちらも進行上気をつけたい。

参加者：実のある提言を求めるのであれば、参加者へのインプットも重要である。他の会議にも出席しているが、事前に資料をいただいている。紙資料は邪魔になるので、データでもいただけるとありがたい。

事務局：基本的にはメールでお送りするが、アドレスを持っていないなどで、資料送付を希望する方がいれば教えていただきたい。

参加者：私はアドレスを持っていない。基本的には、皆さんにメールで送信いただき、私は紙で送ってもらうなど、使い分けをしていただけるとありがたい。

参加者：事前にデータで送っていただき、当日紙資料をいただきたい。

参加者：データでは見にくいので、紙資料もいただけるとありがたい。

参加者：同じ意見であるが、説明の途中で質問されると混乱するので、やめていただきたい。

1 第1回グループ会議の振り返り

2 今後のグループ会議の進め方について

ファシリテーターが、資料2～3に基づき、第1回グループ会議の振り返りと今後のグループ会議の進め方について説明を行った。

(主な意見等)

参加者：本日は、テーマに関する現状を説明いただき、課題と方向性、将来像を話し合うということによろしいか。

事務局：そのとおりである。

- 参加者：次回はどうなるのか。
- 事務局：次回は、方向性に基づく具体的な提言内容を議論いただくことになる。
- 参加者：具体的な提言内容と方向性の境界はどうなるか。
- 事務局：港区として実施した方が良い取組については、具体的な提言内容として次回話し合うこととし、今回は、課題を踏まえて港区としてどういった考え方を持って取り組んでいった方が良いかという方向性を検討したい。
- 参加者：課題や現状については色々な意見が出てくると思う。港区の将来像について、キャッチコピー的なものであり、コピーライターの的な要素があるが、決める必要があるのか。
- 事務局：将来像は今回のタウンフォーラムから設定することになったので、実際にどのようなものができるか、グループ会議でどのようなものが話し合えるのか分からないが、キャッチコピーまで決める必要はないものの、こんなまちになると良いという意見はいただけると良い。
- 参加者：将来像は必要ということか。
- 事務局：提言書の中には入れていきたいので、最終的には考えていきたい。
- 参加者：基本方針についての説明を受けて、良いか悪いかといった判断をするのか。
- 事務局：基本方針について説明するのではなく、テーマに関する現状について説明させていただき、それを聞いていただいた上で課題について話し合い、課題解決に向けた基本方針を皆さんで話し合うというイメージである。
- 参加者：行政評価委員会ではないので、日常生活における課題を出し合い、必要に応じて区に問い掛けて、お互いの考え方をすり合わせた上で提言を行うというイメージを持っている。
- 事務局：事務局からの説明内容について評価してもらいたいわけではない。説明を聞いた上で、日常の中で感じている課題、取組の方向性、取組を出していただきたい。
- 参加者：色々と言明いただいたが、現実を見ると見ないとでは大きく違う。ごみ処理場には行ったことはあるが、テーマに係る施設等を週末などに観てみたい。現実を見ると提言も変わると思う。
- 事務局：ご要望があれば、日程調整等をさせていただく。
- 事務局：港南五丁目の清掃工場は、施設見学も受け付けている。
- 参加者：ごみの減量に向けて色々取り組まれているが、例えば、表彰や3キリ運動をしてごみの減量につながっているのかと思うが、こういった方針について話し合えば良いのか。また、港区では人口が増えているので、ごみも増える。事業系ごみと家庭系ごみがあるが、事業系ごみについては、事業所としてごみをどれだけ出して、それを踏まえた減量目標を設定するという意向はないのか。家庭系ごみについては、元を絞る必要がある。
- 事務局：内容にも入っているので、まずは事務局から資料説明をさせていただく。施設見学については、最後に意向確認と日程調整をさせていただく。

3 テーマ1「ごみ問題・資源循環」に関する検討（前半）

事務局が、資料4に基づき、テーマ1「ごみ問題・資源循環」に関する現状と課題について説明を行った。

サブリーダーが、現状と課題について意見交換を促した。

(主な意見等)

- 参加者：プラスチックの混入割合をどのように下げようと考えているのか。家庭でしっかり分け
てもらおうということか。
- 事務局：究極的にはそのとおりである。プラスチックの使用量を減らすことも重要だが、使った
プラスチックについては長く使う、そして資源として出すということで、減っていくと
考えている。
- 参加者：それができていないということか。
- 事務局：温室効果ガス排出量も減ってはいるが、目標までは達していないということである。
- 参加者：平成33（令和3）年度の目標値について、例えば、将来人口をどのように考えている
かなど、また詳しいデータを提供いただきたい。
- 事務局：人口のトレンドはもちろん押さえており、その上で削減目標を掲げているが、厳しい状
況である。
- 参加者：見込みよりも人口が増えていることも心配している。
- 参加者：オフィスビルの事業者から出るごみも対象となるのか。
- 事務局：優良事業者の表彰は、1,000㎡以上の大規模事業所を対象としている。エコショッ
プは1,000㎡未満の小売店、商店を対象としている。
- 参加者：事業所からのごみ排出量は月ごとに把握できるのか。
- 事務局：把握はできる。
- 参加者：減量目標は立てやすいのではないか。
- 事務局：業種にもよるが、立てやすいと思う。
- 参加者：製造の段階でごみにしないで済む方法を取ってもらえれば、減量につながると思う。
- 事務局：製造業であればそういった取組もできるが、港区にそういった製造業は少ないかもしれ
ない。紙ごみが多い。
- 参加者：紙ごみは再生に回しているのではないか。
- 事務局：機密書類もあり、シュレッダーにかけることも多く、そうなると可燃ごみになる。
- 参加者：機密書類をシュレッダーにかけず、溶解してもらえば減量に繋がるのではないか。
- 事務局：溶解したものがリサイクルされれば資源になる。
- 参加者：実績と目標が大きくかけ離れており、かなり楽観視しているのではないかと感じた。目
標が高すぎるのではないか。例えば、プラスチックの含有割合を減らして目標達成する
には、汚れていてもプラスチックで出してくださいというくらいのことをしないとけ
ない。
- 参加者：2点質問したい。1点目は、森ビルではプラスチックを不燃ごみで出す認識でいると感
じた。資源ごみ以外のプラスチックについて、不燃ごみで出した方が良いのか、可燃ご
みで出した方が良いのか。もう1点は紙ごみについてであり、以前紙資源再生工場に視
察に行ったことがあるが、ビニールが挟まっていたり、ホチキスで綴じてあったりす
ると再生できないということで、紙だけにして処理する事業者もあれば、ホチキスだろ
うがリングだろうが、何でも段ボールに詰めて溶解する事業者もあった。こうしたこと
は出す側も分からない。港区の資源回収は、どういう事業者に出しているのか。
- 事務局：プラスチックについては、基本は資源ごみであるが、港区と千代田区以外は可燃ごみで

出している。不燃ごみで出すとどうなるかという、不燃ごみ処理センターで燃やせるものと燃やせないものを仕分け、可燃性残渣として戻すことになる。埋立ごみに混ぜることは避けたいといけないので、結局は可燃ごみとなる。森ビルの話が出たが、森ビルで排出するのであればそれは産業廃棄物となり、可燃ごみか不燃ごみかという考えにはならないはずである。プラスチックについては、事業活動で出るものは産業廃棄物である。

参加者：食品トレイの裏に紙が貼ってあるが、プラスチックごみとして出して良いか。

事務局：どちらがメインになるかによるが、プラスチックごみで出していただいて良い。家庭から出る資源としてのプラスチックは、資源化センターで作業員が汚れたものを分別したり、最終的に圧縮してプラスチック処理施設に運ぶことをしている。

参加者：コストがかかっている。

事務局：コストはかかっている。燃やした方が格段に安い、温室効果ガスの排出等も踏まえて、港区ではこうした判断をしている。紙資源については、リサイクル事業共同組合の古紙センターに売却している。その先について何か指導しているわけではないが、日本製紙の関東工場に送られている。

参加者：どの程度の混入が容認されるのか。

事務局：何に再生するかということにも関わってくるが、ホチキスのままでも良いと言っている事業者もいる。

参加者：窓あき封筒の窓部分を切り取ってプラスチックに出すということをやっているが、非常に面倒である。何でも紙で良いという地域があるのであれば、港区もそうになって欲しいが、それによって弊害があるのであれば考えないといけない。成城石井は企業として環境のことを考えていると感じるが、再生できる紙ではなく、結局は可燃ごみになる。良いことと良くないことが表裏一体であり、難しい。プラ容器、プラストローが、紙容器、紙ストローに代わると可燃ごみが増える。

事務局：紙ストローがもてはやされているが、可燃ごみが増えることになる。直に飲むか、マイストローが良い。また、食品ロスの問題とも関わっていて、プラスチック容器によって長く保存できる面もある。賢く使う、長く大事に使うということが重要である。

参加者：場所によってごみ箱の種類が違う。マンションで出す際はかなり細かいが、事業所では異なる。定義の不徹底で20～30%損しているようなイメージがある。

事務局：大規模事業所の表彰要素として、細かく分かりやすく仕分けしているかどうかという点がある。廃棄物処理業者に出すことで企業にとってメリットがあるということを周知している。

参加者：港区は、観光客やバックグラウンドの違う人がたくさん集まり、カオスな状態である。地域によって違う、港区でどうして良いか分からないとなると、とりあえず可燃ごみに突っ込むことになる。これは、面倒くさい、分かりにくい根幹にあると思う。ユーザーからすると、港区ではごみをこう出す、分別するというのが明確になると良い。街中を見てもどこを見ても、ごみ箱が統一されていると良い。

事務局：基本的な考えとして、一般廃棄物は市町村、産業廃棄物は都道府県である。

参加者：前回の提言の中にも古川に関するものがあつたが、東京都の管理ではあるものの、港区としてできることをする、東京都と調整するといった内容も含めたと思う。東京都にこ

ういった要望があるということを進言していくことも重要である。

事務局：オフィスの従業員が、オフィス内で食事をして出た弁当がらは、厳密には産業廃棄物であるが、一般廃棄物として解釈して区で処理するということは行っている。

参加者：公園内のごみ箱は少なくなってきているが、どのように処理しているのか。

事務局：事業系の一般廃棄物として処理している。事業者として分別することでメリットを感じれば分別するし、可燃ごみで処理してしまった方が楽と感じればそうしている。

参加者：プラスチック混入割合が10%になってきているという話の中に、産業廃棄物は入っていないか。

事務局：入っていない。

参加者：統一感がないのは問題である。自宅で細かく分別していても、外に出ると何でも良いとなると、モチベーションも下がる。

参加者：港区は田舎ではない。世界中から人が集まる大都市である。

参加者：事業所に対して指導する部署もあるが、なかなか全て回れない。

参加者：お弁当の裏のシールも剥がしている。プラスチックごみについて、あまりにも汚れていて資源化できないというジャッジが区民には難しい。プラスチックは全部出してください、あとは区が責任をもって洗浄して資源化する、ということをする、どれくらいのコストがかかるのか。

事務局：収集等で2億くらいかかっており、施設にも億単位でかかっている。現実的には無理である。

参加者：プラスチック混入割合0%になると、それはそれで厳しいということか。提言として、どこで線引きして、区民に分かりやすくなると良いかということがポイントになる。

事務局：どこで手間をかけるかということだと思う。

参加者：家庭ごみを出す袋を有料化する計画はないか。

事務局：計画としてはない。

(ワークシートに書き出された意見)

【課題】

■減らす

- 目標が高すぎるのでは？
- ごみ減量未達成
- プラスチック削減に役立てるために紙製品に変えつつあるが、可燃ごみが増える
- プラ容器/ストローを紙容器/ストローに変える、可燃ごみが増える
- 家庭系ごみの減量をどうするか？
- 3キリ運動の成果は？
- ごみ廃棄のためのプラスチック袋の定型化と有料化
- 表彰制度でごみは減るのか？
- 事業系ごみ、プリントアウト紙、の扱いは？
- 印刷物が多い、デジタル化が不足している

■分別する

- ごみの確実な分別ができていない

- ごみの分別が統一されていない
- 資源ごみ、不燃ごみ等の定義が統一されていない
- 一般廃棄物と産業廃棄物の区分の明確化
- 可燃ごみのプラスチック混入の改善、分別基準がない？混在のコスト？
- プラごみに紙等が貼付されている
- 区民、在勤者、在学生、観光客など、多くの人が訪れてカオスな状態
- 分別ルール of 定義が周知徹底されていない
- ごみの分別、適正排出の方法が分かりにくい
- ごみの分別、適正排出が手間である

■資源化する

- 資源回収が進んでいない
- 廃材のリサイクル

■良いところ

- 千代田区、港区、プラをサーマルリサイクル→資源化へシフト
- 食品ロス削減できている
- 家具のリユース目標達成している

【方向性・アイデア】

■減らす

- 海洋プラスチックごみを減らす
- 埋立ごみにプラスチックを入れない
- プラスチックを賢く使う（長く使う、何度も使う）
- スーパーの食品トレイの削減
- 肉も魚もマイお皿（マイパック）
- マイ容器でお得！
- 事業者のごみ減量目標の設定
- 事業者ごみの削減
- 資料のホチキス止めを減らす
- 紙資源について、機密書類も含めて溶融化の推進（シュレッダーにかけないで溶融化）
- ミックスペーパーのセキュリティ溶解廃棄も OK な紙回収
- ペットボトル削減、事業者にも協力してもらおう、表彰制度を導入する

■分別する

- 港区の分別・排出ルール
- 外国人に対するごみ分別の認識強化
- プラ容器に貼付されている紙を剥がしやすいものにする→スーパー、業者に優遇

■資源化する

- リユース家具販売の民営化（施設：区、運営：民間）
- リユース家具の展示場所の増設（2か所程度、交通の便の良いところ）
- 資源ごみの持込場の設置

■その他

- 排気物質含有ごみの特別排出の啓発
- 区から都へ提言・提案する
- 区民・事業者にとって分かりやすさと手間のバランス

【将来像】

- 分かりやすい資源化！ グリーンシティ・エコシティ 港区
- 時代の先端を行くごみ減量化！

4 その他

第3回グループ会議は、テーマ1「ごみ問題・資源循環」の具体的な事業、参画と協働の推進について議論することとし、10月28日（月）18:30～、開催場所は後日事務局から連絡することを確認した。また、第2回グループ会議の会議録や模造紙のまとめを事前に送付すること、必要な資料等があれば概ね1週間前までに連絡いただくことを確認した。また、港資源化センターの現地視察を行うこととし、事務局が日程調整を行うこととした。

(閉 会)

サブリーダーが、第2回グループ会議の閉会を告げ、終了した。

以上

みなとタウンフォーラム
環境・リサイクルグループ（第3グループ）

会議録（第3回）

■開催日時・場所・出席者

日 時：令和元年10月28日（月）18時30分～20時30分

会 場：港区役所9階 912会議室

メンバー参加者：6名

事務局：対応部門関係課長2名（環境課長、みなとリサイクル清掃事務所長）、企画課グループ担当
1名、サポートメンバー1名、委託事業者1名

■次第

（開会）

- 1 第2回グループ会議の振り返り
- 2 テーマ1「ごみ問題・資源循環」に関する検討（後半）
- 3 その他

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	第3回グループ会議の目的とタイムスケジュール
2	第2回グループ会議 会議録
3	第2回グループ会議 模造紙まとめ
4	テーマ1「ごみ問題・資源循環」の関連資料

■貸与資料

資料番号	資料名
1	港区基本計画・港区実施計画

■会議要旨

(開 会)

事務局が、第3回グループ会議開催にあたっての挨拶及び開会宣言、配布資料の確認を行った。

1 第2回グループ会議の振り返り

サブリーダーが、第2回グループ会議 会議録への修正等の発言を促した。

(主な意見等)

参加者：資料2の5頁、「窓あき封筒の窓部分を切り取ってプラスチックに出すということをやっている」は「窓あき封筒の窓部分を切り取り除いて、紙資源に出すとして出すということをやっている」に修正いただきたい。

参加者：細かいところで気になることもあるが、特に問題ないと思う。

参加者：以前は、リーダーとサブリーダーは参加者とは分けて書かれていたが、全て参加者なので確認しづらい。

事務局：全グループ統一のルールであり、ご理解いただきたい。

参加者：どうしても修正してもらいたい部分があれば、別途事務局に連絡させていただく。

サブリーダーが、資料3に基づき、第2回グループ会議の振り返りについて説明を行った。

(主な意見等)

参加者：港区の特徴として昼間人口が非常に多く、特に一流企業が多く立地しているということがある。とはいえ、まずは区民が出すごみ、家庭系ごみをどう削減するかに絞って検討した方が良いかなというのが感想である。

参加者：目標が高すぎるという意見は、現行計画に対しての意見である。それをどうするかは、今の現場の人たちが考えることである。私たちは次の計画に向けた提言を考えていく必要がある。次の計画に向けた提言を考えるにあたっては、今の意見とは逆で、公園のごみは事業系ごみなので提言に含めませんということではなく、そこは港区が模範的な分別を行うことが重要である。家庭では分別をするのに、公園では分別をしないというのは、非常に違和感がある。港区が主導で分別する、それを事業者に普及啓発する、それが良いと思う。港区は昼間人口が多く、事業系ごみが圧倒的に多いと思う。提言に入れて、5年～6年でかなり変わっていくことを先導してもらいたい。

参加者：区民が家庭にいる時間と外にいる時間を考えると、外にいる時間の方が長いと思う。より多くの時間を過ごしている外で、職場やコンビニなど、事業系ごみに関係するところで、ある程度ごみの分別をどうするかを決めると、区民も教育されていくと思う。そこから家庭に戻れば、日中やっていることを家庭でも実践できるようになり、区が区民に対して直接啓発するよりも効果的ではないか。働きながら身に付けていく方が自然ではないか。事業系ごみは無視できない。区民の分別の意識を、事業系ごみの分別から教育していくのが良いと思う。

参加者：事業所と家庭での分別が異なっており、これを統一すればかなりすっきりすると思う。家庭系ごみに比べて、事業系ごみはぐちゃぐちゃになっていると思う。そこをしっかりと

させるように港区が働きかけると良いのではないかと思います。

参加者：リーブラホールによく行くが、可燃ごみのごみ箱がなかったりする。どうせごみ箱を設置するのであれば、全種類のごみ箱を設置してもらいたい。適当に入れてしまえという心無い人もいるかもしれない。あらゆるところに全種類のごみ箱を置くということを統一してもらいたい。

参加者：分別をしっかりとしようと思っても、分別できる場所がないとどうしようもない。

参加者：現実問題として、事業系ごみとして分別せずに焼却処理するからである。それが一番コストのかからない方法だからである。それを分別できるようにしてくださいということは、コストをかけないといけないので簡単にはいかない。

参加者：やれるかは分からないが、働きかければ良いのではないか。

参加者：まずは、港区が自分たちの管轄の事業系ごみをしっかりと処理するのが良いと思う。事業者にとってはコストが大きな問題なので、啓蒙だけでは進めない。表彰とか何かを考える必要がある。2、3か所で取り組んでみて、港区が取り組んだらこんなに良くなったということを証明できれば、他も付いてくるのではないか。

参加者：理想は東京都が統一ルールを定めることだと思う。現実では、プラスチックごみをリサイクルしていない、プラスチックごみを可燃ごみとして処理している区がある。

参加者：TVを見ていると、かなり細かく分類している自治体もあるようだが、それを標準化するような仕組みはないのか。

参加者：事業系ごみには産業廃棄物と一般廃棄物があると思うが、事業系一般廃棄物は家庭系と同様に処理されているということで良いか。事業系ごみを適切に処理するというのがよく分からない。

参加者：それは、港区に有料で処理してもらった場合にそうなるということである。

参加者：無料の場合はどうなるのか。

参加者：事業者が一番コストのかからない方法を選択しているのではないか。

事務局：事業者は自らの責任において、処理しなければならないとされている。

参加者：事業系一般廃棄物は無料で処理されるのか。

事務局：無料ではない。自己処理責任という意味は、民間の収集運搬業者と契約を結んで、処理業者のところに運んでもらうということである。区が収集している事業系一般廃棄物については、小さな商店などは、家庭系ごみと一緒に集積所に集積してもらって、その代わりに有料のシールを貼ってもらうということをしている。

参加者：有料化していれば、量が減ろうが増えようが関係ないということになる。有料でやっているのであれば、議題に挙げる必要はないと思う。

参加者：先日、港資源化センターを見に行ったと思うが、大変なごみの量を抱えており、ごみの量が増えると処理能力が追い付かないということになる。

参加者：処理能力が問題であれば、有料なので、それを使って処理能力を上げれば問題ないのではないか。

参加者：お金が入ったからといって、すぐに処理能力を上げることはできない。

参加者：すぐにできるかどうかは別にして、処理能力が問題であれば、有料回収の費用を使って処理能力を上げれば良いと思う。言いたいのは、事業所においては基本的には収集運搬業者と契約して処理している、小規模事業所では有料で港区に収集をお願いしていると

いうことである。

参加者：私たちが考えているのは、ごみを減らそう、無駄をなくそうということである。処理能力が上がればいくら増えても良いという考え方は違うと思う。

参加者：ごみを減らそうということであれば、事業系ごみと限定しなくても、港区から出るごみを減らしていくということが良いのではないか。

参加者：産業廃棄物とのルールを共通化できないかというのが大きな枠組みとしてある。

参加者：産業廃棄物についてここで討議する必要はない。ここでは、一般廃棄物を如何にして減らすかということである。家庭系、事業系と分けることなく、一緒に取り組めば良いのではないか。

参加者：それを産業廃棄物に協力してもらおうという話をしている。区民の1日を考えると大半を外（仕事）で過ごしていて、その多くが大規模なオフィスビルだとすると、こうしたところでは産業廃棄物として独自のルールで処理しており、この独自のルールと家庭でのルールが違って分かりにくい、だから、職場と家庭での分別排出ルールが統一されれば、職場と同じように家庭でも実践してもらえれば良いのではないかということである。

参加者：事業系ごみを産業廃棄物化しようという話か。

参加者：それは違う。港区で働いている人は、小さな事業所で働いている人ばかりではなく、大きなビルで働いている人がいる。

参加者：小さな事業所でも産業廃棄物として処理してもらおうという方向であれば、それはそれで良い。

参加者：それは考えていない。産業廃棄物と一般廃棄物の線引きはそのまま、産業廃棄物と一般廃棄物の分別ルールが異なっているので、統一したらどうかという話をしている。

参加者：事業系一般廃棄物とは何を言っているのか。

事務局：事業系ごみと言っているのは、事業所が出すごみであり、事業所が出す産業廃棄物と事業所が出す一般廃棄物がある。産業廃棄物は、プラスチックやアルミなど、20種類決められている。

参加者：小さな事業所では、産業廃棄物も一般廃棄物として処理しているということが良いか。家庭から出るごみも小さな事業所から出るごみも、同じように処理しているということが良いか。

事務局：まず、家庭系ごみしか収集しないという原則がある。小さな事業所については、本来は事業者としてその責任の下で処理してもらう必要があるが、有料シールを貼っていただければ、区が代わりに収集するということである。

参加者：簡単に言えば、働きながら適切な分別ルールが身に付けば良いということに尽きる。細かいことは行政が詰めてくれると信じている。区民としてポリシーを出せば良い。職住共同というイメージである。

参加者：一般廃棄物は減っているか。

参加者：減っているかどうかは関係なく、削減目標を達成できていないということが問題ある。

参加者：減ってはいるが、目標を下まわっているということ。数値としてはどうか。

参加者：第1回グループ会議で報告されている。

事務局：以前報告させていただいたとおりであるが、減ってはいるものの、一進一退という感じである。目標との乖離は大きい。

事務局：産業廃棄物、一般廃棄物に関係なく、自己処理責任の下で、適切に処理してくださいということであれば、港区としてもこれまでもやっている。

2 テーマ1「ごみ問題・資源循環」に関する検討（後半）

事務局が、テーマ1「ごみ問題・資源循環」に関する追加資料の説明を行った。

リーダーが、具体的な事業及び参画と協働の推進について意見交換を促した。

（主な意見等）

参加者：前回、プラスチックストローと紙ストローの話が出たが、例えば、コンビニで缶コーヒーやペットボトルコーヒーを買ってもらうか、ドリップコーヒー（カウンターコーヒー）を買ってもらうか。缶は減るが、紙ごみは増える。

事務局：何に着目するのか。二酸化炭素排出量に着目するのであれば、紙ごみが増えない方がよい。プラスチックが再生プラスチックだとすると、新たな二酸化炭素を生み出さない。

参加者：ピンが良いのでは。

事務局：ピンと缶は確実にリサイクルされている。

参加者：ピンはリユースできる。あとはマイボトルが良い。

参加者：東京国際フォーラムに行くと、東京都の水飲栓があり、あれは良いと思う。公園の水道をひねって水を飲もうとは思わないが、あのデザインであれば水を汲んでも良いと思う。デザインが良く、港区にも設置して欲しい。

参加者：いくらかかるのか調べておいて欲しい。

参加者：さいたま市の事例で、水道直結のウォーターサーバーがある。熱湯、冷水、常温水も出る。港区に置いてはどうか。それで、ペットボトル販売機をなくす。さいたま市と協定を結んでいるということである。

参加者：値引きシールは、防犯のため剥がしにくくなっている。剥がしてプラごみとして出したいと思う。

参加者：簡単には剥がせなくても、頑張れば剥がせるくらいで良いのではないかな。

参加者：資源化の技術が進んでいる国においては、プラスチックは資源であり、絶対量は減らせば良いが、必ずしも全てを紙製品に変えていく必要はないのではないかな。

参加者：プラスチックをやめてマイボトルにするのは良いが、プラスチックをやめて紙にする必要はない。

参加者：以前、プラスチックは再生しにくかったが、現在、プラスチックを別製品に変えるという議論は意味ない。減らすというところまでいかないと効果はない。

参加者：これまで、中国とか東南アジアで受けていたプラスチックごみは何か。

事務局：産業廃棄物である。

参加者：産業廃棄物のプラスチックを減らす必要がある。

事務局：プラスチック製品として受けていたものが受けなくなり、行き場をなくしている。国内の処理能力が追い付かない。

参加者：東京湾で採れるカタクチイワシの80%にプラスチックが入っている、貝類の生殖器の中にプラスチックから出る有害物質が入っているなどあるが、どこから流出しているのか。

事務局：故意のものと、故意ではないものがあると思う。故意ではないものとして、洪水で流れたり、人工芝がグラウンド使用によって飛び散ったり、コンタクトレンズが流れてしまったり、色々あると思う。

参加者：歯磨き粉や洗顔料にも入っている。

事務局：ウミガメの死因の3番目は風船ということである。

参加者：そういった情報を知らない。

参加者：私も前回のグループ会議後に調べて知った。

事務局：大前提として「Reduce（リデュース：減らす）」がある。

参加者：歯磨き粉に入っていたりすると、使わないというのは難しい。企業もそういった情報を発信はしない。

参加者：何ができるかは分からないが、メッセージは発信していきたい。根本的で大事である。

参加者：環境問題でもあり、健康問題でもある。

参加者：川をさらうことで少しでもプラスチックがさらえて、それが少しでも効果があるならやった方が良い。非現実的ではあるが、古川の河口に網を張るとか。ちなみに、マイクロプラまではいかないが、除去できるくらいのプラはどの程度あるのか。

事務局：そういった情報は持っていない。

参加者：若狭湾の清掃をしたことがあるが、ハングル語の書かれたプラスチック製品が多く流れてきている。

参加者：外国船籍から捨てられるものがある。

(ワークシートに書き出された意見)

【減らす】

○事業系一般廃棄物の削減に取り組む

○ペットボトルの削減に取り組む

・事業所にペットボトル全廃を働きかける

○マイ容器の利用を促進する

・区役所にウォータースタンドを設置し、区役所のペットボトルを全廃する

・屋外型の水飲栓の新規設置を進め、マイボトル化を推奨する

・きれいな給水所、水飲み場を増やす

・マイボトル運動を推進する

○（方向性なし）

・生ごみの乾燥化（家電メーカーと連携して「ごみ乾燥機」を開発し、各家庭での利用促進を図る）

・ごみ排出袋を定型化、有料化する（プラスチックごみの城を目標）

<参画と協働>

・企業で働く人も、「個人として家庭から企業へ場所を移しているだけ」と考えるように意識を変える

・カタログやチラシ等が多過ぎるので少なくする、出し方を減らす

・広告事業者との連携を図る（デジタルサイネージ、ごみ削減・分別）

・スーパーと協力し、トレイの削減に取り組む（マイパックの導入、専用台の設置）

・民泊から出るごみ、小事業体から出るごみを産業廃棄物化することにより、一般廃棄物を削減する

・生産する企業側が材料にプラスチックを混入させないように変えていく

【分別する】

- ごみ削減・分別のアプローチを考える
- ごみ分別の港区ルールをつくる
- 来街者への周知を徹底する
 - ・産業廃棄物と一般廃棄物で、連携して、オフィスから出るごみ・資源と家庭から出るごみ・資源の分別ルールを共通化する
 - ・色とピクトグラムを使って分かりやすくする
 - ・港区の事業系ごみの分別を家庭系ごみと同様にする（⇒事業所の一般ごみの分別を加速させる）
 - ・各種ごみ箱を同じ場所に配置する
- スーパー・食品製造業者に働きかける
 - ・紙（資源）を出せるところとして、大手スーパー等に協力を要請する
 - ・アルミ付き紙パックの資源化を図る

【資源化する】

- 資源回収・リサイクルを促進する
- リユース家具販売を促進する
 - ・町に「ブックシェア本棚」や「おもちゃシェアボックス」の設置を検討する
- （方向性なし）
 - ・野菜くずの資源化（野菜くずを別途回収し、ペットフードメーカーとの連携により、ペットフードにする）
 - ・廃材の国際標準を適用する
- <参画と協働>
 - ・再生家具販売方法の改善（①交通に便利な港区施設に展示する、②カタログを作成して港区施設に配備する、③民間のリサイクルショップに販売委託する）

【啓発する】

- （方向性なし）
 - ・港区資源化センターでの作業を周知する。短く分かりやすいDVDに作り直して見せる（ちいばす等のTVも活用する）
- （方向性なし）
 - ・観光客向けの清掃ボートツアーの開催を検討する（ヨーロッパでは成功している）
 - ・グリーンバード（的なボランティア清掃活動）と連携を図る
- （方向性なし）
 - ・マイクロプラスチックのリデュースに取り組む（区民への啓蒙、情報提供）
 - ・マイクロプラスチック削減（マイクロプラスチックの基となるものが何かということが分かるように啓蒙する）
 - ・プラスチック削減に向けた区民への情報提供をする
- <参画と協働>
 - ・家庭ごみを出す際に、びんごみの蓋を取る、プラスチック容器に貼付の紙を取るなど、細かく依頼す

る…広報紙で周知を図る

- ・スーパーと協力し、トレイのシール、袋のシールを強度の低い製品に変更する

4 その他

第4回グループ会議は、テーマ2「緑や水辺の保全・創出」の現状・課題、取組の方向性、将来像について議論することとし、11月12日（火）18:30～、開催場所は後日事務局から連絡することを確認した。また、第3回グループ会議の会議録や模造紙まとめを事前に送付すること、必要な資料等があれば概ね1週間前までに連絡いただくことを確認した。

（閉 会）

リーダーが、第3回グループ会議の閉会を告げ、終了した。

以上

みなとタウンフォーラム
環境・リサイクルグループ（第3グループ）

会議録（第4回）

■開催日時・場所・出席者

日 時：令和元年11月12日（火）18時30分～20時30分

会 場：港区役所9階 研修室

メンバー参加者：4名

事務局：対応部門関係課長・係長3名（環境課長、地球温暖化対策担当課長、緑化推進担当係長）、
企画課グループ担当1名、サポートメンバー1名、委託事業者1名

■次第

（開会）

- 1 第3回グループ会議の振り返り
- 2 テーマ2「緑や水辺の保全・創出」に関する検討（前半）
- 3 その他

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	第4回グループ会議の目的とタイムスケジュール
2	第3回グループ会議 会議録
3	テーマ1「ごみ問題・資源循環」の議論のまとめ（案）
4	テーマ2「緑や水辺の保全・創出」の関連資料

■貸与資料

資料番号	資料名
1	港区基本計画・港区実施計画

■会議要旨

(開 会)

リーダーが、第4回グループ会議開催にあたっての挨拶及び開会宣言を行った。
事務局が、配布資料の確認を行った。

1 第3回グループ会議の振り返り

リーダーが、資料2及び資料3に関する意見等があれば事務局まで提出するよう、メンバーに連絡した。

2 テーマ2「緑や水辺の保全・創出」に関する検討（前半）

事務局が、資料4に基づき、テーマ2「緑や水辺の保全・創出」に関する現状と課題について説明を行った。

リーダーが、テーマ2に関する現状と課題について意見交換を促した。

(主な意見等)

参加者：水辺の散歩道は、ほぼ整備が終わっているのか。それとも、更に次のステップに進む予定があるのか。

事務局：東京都港湾局の所管で整備している。近年、散歩道の整備の伸びが鈍化しており、整備されていない護岸もあるが、占用の問題で着手できないなど、難しい箇所が残っている状況である。

参加者：まだ整備すべきところはあるにしても、素晴らしい取組だと思う。ただ、まだ次のステップもあると思う。例えば、お年寄りが多いのでベンチを整備したり、花を増やしても良い。次のステップがあれば教えて欲しい。

事務局：基盤となる内部護岸ができない限り、次のステップには行けない状況である。また、内部護岸ができて、利便上の問題から、散歩道にアクセスする出入口が2か所必要で、2か所確保できたところから整備している。

参加者：泳げる海お台場について、下水施設が不十分で、雨水と一緒にになっている。100点を目指してすごいお金をかけているように感じるが、それではいつできるか分からない。お台場に雨水が流れ込むことに関しては、東京都全体で取り組まなくても、流れ込むところを何か所か対応すれば良いのではないか。例えば、お台場の向こうまで持っていくという考えもあり、1兆円、2兆円かかる話ではない。こうしたことができない理由は何か。

事務局：遠くに持っていけば良いという話もあるが、東京湾全体、荒川、多摩川、墨田川など、港区だけでなく全てつながっている。東京都全体の下水道が合流式であり、雨が降って許容量を超えると、上流から流されてくる。600か所から700か所を全部合流式にするとなると、50年10兆円という報道が出た。水質を改善させるためには、水再生センターや古川沿いに貯留施設をつくる、水再生センターの高度処理の速度を2倍にするなどの対策もあり、改善を図っているが、こういった対策を取るべきか難しいと東京都からは聞いている。

参加者：時代とともに技術も進んでおり、時間もお金もかからなくなってきているのか。

- 事務局：オリンピックに向けて、東京都もようやく本気になり始めた。1年限りではなく、東京湾全体の水質改善を求めている。
- 参加者：お台場に汚水が入らないようにする、入ったものの中で処理する、基本の対策はこの2つである。前者にお金がかかるのであれば、中で常時浄化していくようなことはできないのか。こういったアプローチは具体化されていないのか。
- 事務局：具体化はされていない。オリンピックでは、お台場を水中スクリーンで囲うことになるので、囲ってしまったら何らかの浄化をすればきれいになると思う。現在は屋形船なんかも入ってきているので、囲うわけにはいかない。来年度のオリンピックに向けた取組も踏まえて、東京都中心に考えていくことになる。
- 参加者：生物多様性で、基本的には緑を増やしてエコロジカルネットワークでつなげていけば良い、緑を増やせば色々な生き物がやって来て多様性が高まるということだが、具体的に、調査して定量的に評価して、効果がある、ないというところを教えて欲しい。
- 事務局：港区内の生き物実態調査ということで、概ね10年おきに調査を実施している。パンフレットにあるように、赤坂御所、青山霊園、明治神宮外苑など大きな緑地があり、それらを結んでいこうということだが、現在、効果があったかどうかを評価する指標を考えているところである。
- 事務局：理想は、区内全域で生き物調査を実施して、どこで何が増えたのか、減ったのかを調査していくことだと思うが、かなりの費用と時間がかかるので、代替する方法としての評価指標を検討しているところである。
- 参加者：鳥を観察する時、空を見上げて、今年は何種類が何羽来たかなど、昔から色々な調査方法があると思うが、現在評価指標を検討しているということはどういうことか。
- 事務局：平成元年と平成20～21年度にかけて港区全域で実態調査を行った。それが出来れば良いが、それに代わるものとして小規模な方法、生物調査以外の方法を考えている。
- 事務局：例えば、10～20年前に明治神宮でしか見られなかった生き物がこちらでも見られるようになったとなれば分かりやすいが、そういった評価指標を考えている。
- 参加者：学術的に固まった方法がないのか。
- 事務局：エコロジカルネットワークという概念自体が最近出てきたので、こうすれば良いという評価指標はない。
- 参加者：環境省でもガイドラインを作っていないのか。
- 事務局：ない。
- 参加者：緑化の取組も素晴らしい。新築であれば取り組みやすいが、既存の高層マンションの屋上は緑化されていない。既存の建物の緑化が進まない理由は何か。
- 事務局：緑化助成の対象は、新築の場合は緑化の義務のない250㎡以下の敷地の建物が対象である。既存の建物であれば、緑化義務があっても、5年以上経てば助成の対象である。伸びが減っているが、支所に確認すると、助成の相談自体はきているが、施工業者に見積もりを取ると意外に費用がかかり、相談はするが申請はしないケースがあるということを知っている。屋上緑化をしたくても、見積もりを取ると想定以上に工事費がかかり、躊躇するということである。
- 参加者：樹木材料や工事費も含めて、助成対象になるのか。
- 事務局：そうなる。防水対策、軽量土壌、灌水装置など、意外と高額になるようである。

- 参加者：人工芝が増えているが、国や東京都では、天然芝を推奨しているのではないか。天然芝になれば良いと思うが、その方針は最近されたのか。
- 事務局：学校の校庭の話なので、一度確認したい。学校でビオトープを整備したりする動きはあるが、グラウンドの方針については確認させてもらいたい。
- 参加者：芝浦第二小学校ができるが、グラウンドをどうするか、教育委員会から設計に指示が出ていると思う。
- 事務局：港区の学校としての考えもあると思うので、確認したい。
- 事務局：(都市の生物多様性指標及び自治体ランキングに関する情報提供)
- 参加者：会議録と合わせてアドレスを教えて欲しい。
- 参加者：多様性がないところが変化したのか、あるところが変化したのか、こういったランキングなのか。
- 事務局：過去と比べているわけではない。
- 参加者：23区は不利ではないか。
- 事務局：緑地があるかどうか、生物多様性が確保されているかどうかだけではなく、緑の基本計画に施策として打ち出しているかどうかなども評価指標となっており、必ずしも不利というわけではない。
- 参加者：古川の親水化について、三田というのは小山町か。数年後の再開発が始まるので、いずれ動くということか。
- 事務局：そのとおりである。
- 参加者：古川のBOD値が下がっているのは、誤差の範囲内か、何かファクターがあるのか。
- 事務局：何か大きなファクターがあったわけではなく、気象条件などが関係していると思う。
- 参加者：このテーマについては、港区は良くやっていると思う。水辺の散歩道については、あとは難しいところをやっていくということだが、取組として掲げるのであれば、何かインパクトが必要である。道路緑化も頭打ちになっている。このままで良ければ良いかもしれない。雨水浸透施設も各年に増えているのか。
- 事務局：各年度の整備件数である。再開発に合わせて指導している。
- 参加者：保護樹木の登録本数も同様か。頭打ちになっているのか。
- 事務局：保護樹木は、毎年登録もあれば解除もある。プラスマイナスがあり、伸びが悪い。
- 参加者：外来種について、最近ではヒアリがニュースになったが、私もアメリカにいるときにゴルフ場でヒアリにやられて大変なことになった。どういう対策か分からないが、対策した方が良い。
- 参加者：大阪市でも、雨水が一定量を超えると下水が流れ込むことが問題になっている。平成の太閤下水を開始し、下水の放流がなくなるという事例がある。膜分離活性汚泥法というものにチャレンジもしている。予算も分からないが、港区もこうした外の動きにアンテナを張って、少ない予算でやってみるのも良い。
- 参加者：北浜にテラスが設けられていて、カフェも人気である。水をきれいにして、水辺をしっかり整備することで、観光客も来て、さらに水もきれいになって、そういった好循環がある。
- 参加者：古川について詳しく分かっていないが、みんなが集まれるところがあるのか。
- 参加者：基本的に首都高の下である。

参加者：歩いて気持ちが良いところか。

事務局：白金公園では親水公園ができており、テラスも作っている。

参加者：川をのぞくときれいなのか。

参加者：たまに魚も泳いでいる。

参加者：護岸に広さがあるって、人が集まるようになっていて、夜にはライトアップもされて、そういう場所が生まれると、環境に対する意識も高まるのではないか。港区でもできることはないか。

事務局：芝浦港南ではライトアップもされている。

参加者：一の橋公園でもライトアップをしていた。

参加者：運河でも河川敷でも、問題は建物の面が表側か裏側かである。歩きたくなる景観にする必要がある。ただ、それを議論するのは他のグループである。

参加者：北浜も裏側である。港南ではアパートもあり、あまり見たくない。公園あたりは良い。生物多様性を絡めてできないか。

事務局：古川周辺で大きな再開発が2か所動いている。まちづくりと絡めて何か提案できると良いと思う。

事務局：(かわまちづくりに関する情報提供)

参加者：それもまた教えて欲しい。

参加者：湧水があるのか。

事務局：緑の実態調査で湧水が確認できたところを示している。排水しているところ、貯めて排出しているところもあり、情報提供する。

参加者：排出しているのであれば、どこに排出しているのか。

事務局：下水である。

参加者：何か見せられると良い。湧水は使えそうである。

(ワークシートに書き出された意見)

【緑と水のネットワークの形成に関すること】

○良いところ

- ・水辺の散歩道は素晴らしい（でも、もっとよくできる！）
- ・地理的に、水資源に恵まれている
- ・水辺の環境がよく整備されている
- ・港南地区、芝浦地区の運河沿いはよくできている

○課題

- ・水辺の散歩道は、夏暑く、散歩しづらい
- ・水辺の散歩道は Good だが、さらに進めるのであれば、インパクトある取組を！
- ・泳げない台場でトライアスロンをやるのは大問題
- ・お台場・運河の水質が向上しない
- ・道路（歩道）が熱い。木が低い

○アイデア

- ・台場の海の中に浄化装置を導入する
- ・歩道を覆う大きな樹木を植える（そのための装置&車を変える）

- ・防災（避難・帰宅困難者通行ルート）を緑地帯・水路で整備する（鳥も通る）

【水環境の保全・向上に関すること】

○課題

- ・都市型浸水により、港区の浸水エリアが拡大した（前提が変わったからだが）
- ・東京湾、古川の水質が汚い（悪臭、特に大雨の時）
- ・湧水（生活排水よりはおそらく水質の良い）をそのまま下水に流している

○アイデア

- ・公園を雨水浸透に変える（都市型浸水の防止のため）

【生物多様性の保全・再生と持続的な利用に関すること】

○課題

- ・エコロジカルネットワークの効果が曖昧（投資効果）
- ・ビオトープの管理の悪さ
- ・ヒアリの侵入の阻止

○アイデア

- ・他の自治体（三多摩）と連携して環境教育を推進する
- ・とうきょう・みなと生物多様性フォーラム、シンポジウム、EXPO を実施する
- ・生物多様性教育・学びを大学の先生にやってもらう（大学の先生もやりたい）
- ・箱モノは港区がつくるが、管理は住民が行う仕組みづくり（ビオトープ）
- ・外来種の注意管理

【みどりの保全と創出に関すること】

○良いところ

- ・緑化もよく進んでいる

○課題

- ・壁面緑化・屋上緑化が少ない
- ・既設の建物の屋上緑化が進まない

○アイデア

- ・学校のグラウンドの芝生化
- ・消防団のような公務員制度を創設する
- ・植樹、メンテナンスを地域の人が行うように機会提供&費用助成
- ・事業者を強く指導する（屋上緑化・壁面緑化）

4 その他

第5回グループ会議は、テーマ2「緑や水辺の保全・創出」の具体的な事業、参画と協働の推進について議論することとし、11月29日（金）18:30～、開催場所は後日事務局から連絡することを確認した。また、テーマ1「ごみ問題・資源循環」の議論のまとめ（案）に対して、意見等があれば11月22日（金）までに事務局に提出することとし、第5回グループ会議において、まとめ（案）への反映について議論することとした。なお、第4回グループ会議の会議録や模造紙

まとめを事前に送付すること、必要な資料等があれば概ね1週間前までに連絡いただくことを確認した。

(閉 会)

リーダーが、第4回グループ会議の閉会を告げ、終了した。

以上

みなとタウンフォーラム
環境・リサイクルグループ（第3グループ）

会議録（第5回）

■開催日時・場所・出席者

日時：令和元年11月29日（金）18時30分～20時30分

会場：港区役所5階 512会議室

メンバー参加者：4名

事務局：対応部門関係課長1名（環境課長）、企画課グループ担当1名、サポートメンバー1名、委託事業者1名

■次第

（開会）

- 1 第4回グループ会議の振り返り
- 2 テーマ2「緑や水辺の保全・創出」に関する検討（後半）
- 3 テーマ1「ごみ問題・資源循環」に関する検討（追加）
- 4 その他

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	第5回グループ会議の目的とタイムスケジュール
2	第4回グループ会議 会議録
3	第4回グループ会議 模造紙まとめ
4	テーマ2「緑や水辺の保全・創出」の関連資料
5	テーマ1「ごみ問題・資源循環」の議論のまとめ（案）
6	テーマ1「ごみ問題・資源循環」に関する追加意見

■貸与資料

資料番号	資料名
1	港区基本計画・港区実施計画

■会議要旨

(開 会)

リーダーが、第5回グループ会議開催にあたっての挨拶及び開会宣言を行った。
事務局が、配布資料の確認を行った。

1 第4回グループ会議の振り返り

事務局が、資料3に基づき、第4回グループ会議の振り返りを行った。リーダーが、資料2及び資料3に関する意見等があれば事務局まで提出するよう、メンバーに連絡した。

2 テーマ2「緑や水辺の保全・創出」に関する検討(後半)

リーダーが、具体的な事業及び参画と協働の推進について意見交換を促した。

(主な意見等)

参加者：屋上緑化・壁面緑化の推進に「事業者を強く指導する」とあるが、提言書にはどこまで書くのか。容積率や延床面積等を考慮した具体的なガイドライン作成までイメージするのか。

事務局：緑化の指針はある。敷地面積250m²以上では、新たに建築物を建てる際に一定程度の緑化を求めている。

参加者：それは事業所か。緑化をしなかった場合、罰則はあるか。

事務局：マンションや個人宅である。罰則はない。

参加者：指導したり、指導したのに緑化をしなかったというケースはあるのか。

事務局：そういったケースはない。

参加者：指導というのは具体的にどういったことをされているのか。

事務局：指導ということではなく、条例に規定しているということである。

参加者：敷地や屋上は面積基準があって取り組まれていると思う。一般的にベランダには物を置いてはいけないということになっているが、植木鉢を置いたりしている家庭も多い。ベランダの面積を足し合わせると結構な面積になると思うので、こういった緑化であれば安全であるということを示すガイドラインを作成して広めてはどうか。

参加者：既存のマンションでのベランダ緑化は、それを想定していないので、苦情が来たり、荷重制限もある。新築マンションのガイドラインは良いかもしれない。

事務局：緑化をさらに進めるための議論は庁内でも行っており、ベランダ緑化も議論している。ベランダ緑化に関心を持ってもらうための冊子作成なども良いという話をしている。

参加者：避難経路に物を置いてはいけないし、マンションごとに決まりもある。

参加者：なので、ガイドラインが必要になると思う。

参加者：何年か前にある自治体で、タワーマンションを建てる際、防災上の観点からベランダを作らなければならないという条例に基づき、高層階でもベランダを作らせたところがある。自治体がこうしたガイドラインを作ると、ディベロッパーも乗ってくる。ガイドラインをどうするかは議論が必要だが、港区独自のものを作れば、それ以後、ベランダ緑化を前提としたマンションを建てることができるのではないかと。難しいかもしれないが、方向性としてはあると思う。

- 参加者：あまり難しいと思っていない。荷重制限に対して、樹木等がどれくらいの重さか、個人には分かりにくい。安全性など、色々なことを考慮して緑化をしていない人はたくさんいると思う。そこに、このポイントを押さえれば大丈夫という感じで後押しできれば良い。
- 参加者：ベランダ緑化に関する施策は、緑のカーテンだけか。緑のカーテンで虫が来たりすると周りに迷惑かなと思うと躊躇する。緑化する雰囲気を広まれば良いかもしれない。
- 参加者：マンションは開口部が広く、壁面緑化はなじまない。残るところはベランダである。
- 参加者：マンションで「二酸化炭素固定認証制度みなとモデル」をやっているところはあるか。ベランダに木材を使用するなど、壁面緑化とベランダ緑化を同時解決する。
- 参加者：行政は実現可能性を意識するが、こうなったらいいという理想から考えられると良い。
- 参加者：条例改正というのは難しいのか。
- 事務局：色々な考え方をしている人がいるので、しっかりと説明しながら進めないといけない。
- 参加者：条例までいかななくても、要綱など、方法は色々あると思う。
- 参加者：公報で、区営住宅に家具の転倒防止金具を付けても良いということが周知された。この広報を見て、一体どれくらいの世帯が取り組んだのだろうか。区が呼びかけて、どれくらい効果があるのか、調べると参考になりそう。区として提言を受けた時に、重点課題に挙げられるのかどうか。実現不可能な提言は、事前に言ってもらいたい。
- 参加者：あとはどこで緑化可能なのか、それがベランダだけであれば取り組んでもらいたい。個人向けの啓発でダメなら、自治会向けであったり、管理組合と協力したり、モデル的に行って良い。そういった動きがあると良い。
- 参加者：緑化のパイロット地区を作るのは良いと思う。水と緑のネットワークで「港区から近隣自治体に広める」というアイデアがあるが、特区を決めてやってみて、それを広める、道路からまち全体へ、手ごたえがあれば広めていく。道路は道路、マンションはマンションではなく、エリアでできると良い。
- 参加者：ヨーロッパの古い住宅では、看板の設置や色使いなど、様々な決まりがあって、それを守らないと住めない。最近建てられたタワーマンションなど、しばらくはそのまま壊されることはないと思う。文化的伝統ができていくと思う。
- 参加者：マンション1棟だけでなら面白いコンセプトもあるが、連続性はない。
- 参加者：景観でも、周辺環境に配慮した色遣いをするコンビニもある。こういった流れの中で緑化を考えれば良い。
- 参加者：「防災緑地帯を水路で整備する」とはどういうことか。
- 参加者：既存の水路や道路を、歩行者通路として活用する、帰宅困難時にも通りやすいようにするということである。街路樹1列が普通だが、2列並べて、そこは帰宅困難者ルートであるということにする。そうすることで、有事でも安全性が保たれるようにする。さらに、生きものも通れるようになる。
- 参加者：道路緑化について、御成門から神谷町までの区道において、樹木が切られて、その上がビニールテープで止められ、コーンが置かれているところがある。
- 事務局：樹木が台風等で倒れて、一時的にそういった対処をしているように思うが、関係部署に確認しておく。
- 参加者：泳げる海のところで「フィルターで覆う」というアイデアがある。降雨時にはフィルタ

一をかけて、吐き出し水が海に来ないようにすると良いと思うが、どうか。水質が改善するような気がする。ただ、できそうならやっていると思うので、その辺りを聞いたかった。

事務局：お台場には屋形船も入っている。東京都の管理にはなるが、方法としてはあると思う。港区単独ではできないし、色々な調整はあるが、絶対にだめではない。

参加者：1兆円、2兆円という話ではないので、可能性はあると思う。

事務局：東京オリンピックではそういった手法を取ろうとしている。囲ってしまって浄化設備を入れる実験もしている。

参加者：オリンピック後も、レガシーとして取り組んでもらいたい。

事務局：オリンピックできれいになっても、また汚れてはいけない。

参加者：東京都はオリンピックに向けてかなり頑張ると思うので、継続するというのを基本方針に入れていきたい。

参加者：港区民なのでお台場に目がいくが、本当はお台場に流れ込んでくる水を考える必要がある。そこを解決すれば、お台場も改善する。根本を解決する必要がある。

参加者：きれいになって泳げるようになれば、港区民にも恩恵がある。

参加者：古川は渋谷川が名前を変えて流れている。渋谷に行くと思いと臭いと思う。川の質が良くない。下流の古川を良くするためには、上流の自治体への要望も必要である。

事務局：まちづくりでも、港区と渋谷区で古川を改善しようという動き（会議体）がある。上流から高度処理水を流しており、各区が負担金を払っている。

参加者：昔と比べて、古川はきれいになった。港区で海水浴ができるのは、観光資源になる。

参加者：エコロジカルネットワークの効果検証について、大学にはそういったことが好きな先生もいる。200~300万くらいでやってくれる先生もいるのではないかな。

参加者：ビオトープづくりも次のステージに。本来の日本の生物環境を目指したい。住民が入って、区の運用が大変にならないようにする。

参加者：緑化条例については、強制力があるものがあっても良いと思う。

参加者：緑化計画書制度は、マンションにも適用されるのか。

事務局：マンションにも適用される。

参加者：マンション緑化をしたい管理者もいるが、個別に相談すると大変である。パターン化して費用を抑えるという方法もあると思う。

参加者：屋上緑化のパターン化というイメージである。

(ワークシートに書き出された意見)

○水辺の散歩道を活用して、水に親しめる機会をつくる（親水環境を向上する）

・水に親しめるモデル地区、パイロットエリアを設定する

○「泳げる海、お台場」を実現する

・水の浄化設備を設ける（子どもたちへの教育目的）

・お台場の海底のヘドロを、きれいな砂と入れ替える

・お台場の海水を総入れ替えする

・雨水(汚水)を吐き出すタイミングで、台場を海水フィルターで覆う運用とする

・東京都と台場を海水浴場としてオープンする日程を定め、これに向けた具体的な対策を立案し、進捗

監視を行う体制を構築する

○雨水浸透施設を整備する

- ・既存の建物の中庭等への雨水浸透施設の設置を促進する
- ・都市型浸水の防止のため、公園を雨水浸透に変える

○緑を創出する

- ・橋を緑化する
- ・学校のグラウンドを芝生化する
- ・ベランダ緑化ガイドラインの作成と啓蒙活動の推進
- ・マンションの屋上緑化のための基本パターンを作り、費用低減し屋上緑化を推進する

○屋上緑化・壁面緑化を推進する

- ・事業者を強く指導する（屋上緑化・壁面緑化）

○夏場に緑陰を形成する街路樹を増やす

- ・高齢者が夏に散歩できるように、ベンチを設置し、日除け、樹木を増やす
- ・歩道を覆う大きな樹木を植える（そのための装置&車を変える）

○区民・事業者が緑地を設計・管理・活用する仕組みをつくる

- ・消防団のような公務員制度を創設する（みどりの保全隊(?!))
- ・植樹、メンテナンスを地域の人々が取り組めるように機会提供、費用助成を行う
- ・ビオトープの管理を住民が行う仕組みをつくる
- ・港区が設置したビオトープを住民が管理する仕組みづくり
- ・既存の事業所やマンション等への緑化計画書制度の適用拡大
- ・「港民間事業所・住宅設備等の設備環境配慮ガイドライン」の作成
- ・緑化条例の制定とその普及のための補助金制度、表彰制度の創設

○緑と水のネットワーク形成

- ・防災（避難・帰宅困難者通行ルート）を緑地帯・水路で整備する（鳥も通る） ※港区から始め、近隣自治体に広める

○生物多様性を確保する

- ・生物多様性向上の状態の見える化
- ・エコロジカルネットワーク効果測定方法の研究
- ・公園、ビオトープ、外来種捕獲・放流禁止
- ・ヒアリ侵入調査の実施
- ・ヒアリの駆除、拡散防止
- ・外来種注意喚起（ヒアリ）

○生物多様性に関する学びの機会を増やす

- ・生物多様性教育を大学の先生にやってもらう
- ・とうきょう・みなと生物多様性フォーラム・シンポジウム・EXPO を実施する
- ・他の自治体（三多摩）と連携して環境教育を推進する

3 テーマ1「ごみ問題・資源循環」に関する検討（追加）

事務局が、資料6に基づき、テーマ1「ごみ問題・資源循環」の議論のまとめ（案）に対する参加者意見の説明を行った。

(主な意見等)

- 参加者：ごみ箱の色分けについては、可燃＝赤、不燃＝黒、PET＝緑、資源プラ＝橙、かん＝青、びん＝黄として、ごみ箱には「可燃」など、大きく分かりやすく表示して欲しい。
- 参加者：「食べきり協力店」の冊子があるが、掲載店は限られている。本当は131店もあるのにそれが分からない。立派な冊子でなくても良いので、リスト化してはどうか。HPでも確認したが、そのお店がどこにあって、どんな取組をしているかは、どんどんクリックして見ていかないと分からない。
- 参加者：取組の成果が分からない。アンケートを取って、評価しないとイケない。
- 参加者：食べきり協力店のポスターがある。「小盛・半盛OK」「特典あり」など、もっと大きく表示する。
- 事務局：ごみ箱の色分けは、「分別する」の内容に追加する。食品ロス削減の取組は「減らす」方向性から追加する。
- 参加者：リストは良いと思うが、内容はどんどん更新されるので、URL記載でも良い。
- 参加者：食べログと連携できると良い。
- 参加者：そういった公民連携できると効果は大きい。区の宣伝もできる。
- 事務局：その他、「資源化する」の方向性は意見を追加し、「減らす」の方向性も修正する。
- 参加者：WPR化に関しては、施設を作る必要があり、費用がどれくらいかかるか分からない。
- 事務局：港区には土地がない。運搬費はかかるが、施設があるところと連携するということになるか。パーティクルボードにする取組はしている。港区に施設はないので、江東区の工場で行っている。
- 事務局：将来像について、「家庭ごみの分別基準を事業所ごみへ適用しよう！」は、小規模事業所の少量のごみはシールを貼ることで家庭ごみと同じように排出している。それ以外の委託しているものは法改正をする必要があり、将来像にするのは厳しいと思う。
- 参加者：環境負荷低減は、ごみ減量だけではない気がする。
- 参加者：「時代を先駆けるごみ対策で「クリーンみなど」へ！」は分かりやすく良いと思う。
- 参加者：将来像は引き続き課題とする。
- 参加者：提言書の文章ができてから、適した将来像を考えても良い。
- 事務局：このグループでの議論は「分かりやすさ」を重視していると思うので、そこが入ってくると良いのではないかな。

4 その他

テーマ3は、「環境保全・美化活動の推進」としていたが、これまでの議論の分野・内容を踏まえてリーダーを中心に協議した結果、「気候変動の影響への適応」とすることとした。

第6回グループ会議は、テーマ3「気候変動の影響への適応」の現状・課題、将来像、取組の方向性について議論することとし、12月10日(火)18:30～、開催場所は後日事務局から連絡することを確認した。また、第5回グループ会議の会議録や模造紙まとめを事前に送付すること、必要な資料等があれば概ね1週間前までに連絡いただくことを確認した。

(閉会)

リーダーが、第5回グループ会議の閉会を告げ、終了した。

以上

みなとタウンフォーラム
環境・リサイクルグループ（第3グループ）

会議録（第6回）

■開催日時・場所・出席者

日 時：令和元年12月10日（火）18時30分～20時30分

会 場：港区役所9階 研修室

メンバー参加者：5名

事務局：対応部門関係課長1名（環境課長）、企画課グループ担当1名、サポートメンバー1名、委託事業者1名

■次第

（開会）

- 1 第5回グループ会議の振り返り
- 2 テーマ3「気候変動の影響への適応」に関する検討（前半）
- 3 その他

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	第6回グループ会議の目的とタイムスケジュール
2	第5回グループ会議 会議録
3	テーマ1「ごみ問題・資源循環」の議論のまとめ（修正版）
4	テーマ2「緑や水辺の保全・創出」の議論のまとめ（案）
5	テーマ3「気候変動の影響への適応」の関連資料

■貸与資料

資料番号	資料名
1	港区基本計画・港区実施計画

■会議要旨

(開 会)

リーダーが、第6回グループ会議開催にあたっての挨拶及び開会宣言を行った。
事務局が、配布資料の確認を行った。

1 第5回グループ会議の振り返り

事務局が、資料3及び資料4に基づき、第5回グループ会議の振り返りを行った。
リーダーが、資料2に関する意見等があれば事務局まで提出するよう、メンバーに連絡した。

2 テーマ3「気候変動の影響への適応」に関する検討（前半）

事務局が、資料5に基づき、テーマ2「気候変動の影響への適応」に関する現状と課題について説明を行った。
リーダーが、テーマ3に関する現状と課題について意見交換を促した。

(主な意見等)

参加者：年度によって実績が大きく異なっている部分もあるが、何か特別な予算が付いたりしているのか。

事務局：例えば、LED照明の導入に関しては、集中的にLED化を推進しようという動きがあり、それも相まって実績が大きく伸びていると思う。

参加者：町会の街路灯は、LED化がかなり進んでいる。

事務局：区有施設の照明も、LED化を進めている。清掃事務所はほとんどLED照明である。

参加者：緑のカーテンプロジェクトについて、講習会参加者数は増減があるものの、苗の配布数は毎年5,000株となっているが、どのようにしているのか。

参加者：用意した苗を全て配っているという意味ではないか。

事務局：区役所の1階などでも配布している。

参加者：人気があり、5,000株はすぐになくなるのではないか。

参加者：講習会に参加したことはあるが、マンションで苗を植えられないので、断ったことがある。

参加者：都会に住んでいる人は、土いじりに癒されると思う。港区はあきる野市と連携していると思う。

参加者：気候変動対策として、緩和と適応があるということだが、基本計画・実施計画の成果目標・活動指標の資料に載っている事業は、緩和か適応か。

事務局：緩和もあれば、適応もある。緑のカーテンプロジェクトの推進、遮熱性舗装等の推進、クールスポットの整備といった事業は、適応策である。

参加者：省エネルギー機器とは、例えばどのようなものがあるのか。

事務局：エネファームなどがある。

参加者：エネファームは水素。日本は水素社会を目指している。

参加者：エネファームは、電気を作り、お湯も同時に作り出す家庭用燃料電池であると、日本ガス協会で紹介されている。

事務局：ガスから水素を取り出して、発電時に出る熱でお湯を作るシステムである。

- 参加者：都市ガスから水素を取り出し、空気中の酸素と化学反応させて発電する燃料電池である。
- 参加者：浸水ハザードマップについて、レベル表示が変わったことで作り変え、配布してもらったが、とても分かりにくい。理解しやすい、使いやすいものを作るという姿勢で作ってもらいたい。
- 参加者：地域によって前提条件が違うのに、それを1枚の絵にしているというところが分かりにくいのではないか。
- 参加者：裏面の言葉の説明が分かりにくい。慣れない人が見て、理解できるのか。江戸川区では「逃げてください」というような分かりやすい表現を使っている。使われないと意味がない。
- 参加者：ハザードマップを作ることが目的となっている。本当に必要な情報が表面に載っている必要がある。以前のハザードマップは「大丈夫です」という結果になるが、今のハザードマップは「大変なことになります」という結果になる。それなのに作りが同じである。
- 参加者：防災課は暢気だと思う。古川のすぐ近くに住んでおり、先日水位が上がってきたという防災無線が流れた。ただ、ラジオでは流れなかった。なぜ流さないのか聞いたら、「古川の近くではない人が聞いたら鬱陶しいだろうと思い、流しませんでした」と回答された。そういう遠慮はやめるべきと言った。
- 参加者：親戚や家族が古川の近くにいるかもしれない。そんな基本的なことが分かっていない。
- 参加者：防災ラジオは、以前はお台場地区でしか配られていなかった。30年度からは、区内の防災無線が聞こえにくいところに防災ラジオを配ることにしている。
- 参加者：文句を言う人は一定数いる。それは仕方がない。
- 参加者：「港区みどりの街づくり賞」の冊子をいただいた。天祖神社の方に見せたら、書かれている内容が合っていないということだった。記事作成にあたって取材に来られなかったということである。素晴らしいものを作るのであれば、関係者に確認してちゃんと作成して欲しい。
- 参加者：高反射塗料によって反射された熱はどうなるのか。
- 参加者：大気中に反射される。
- 参加者：暑くならないのか。
- 参加者：反射した先に人がいれば暑く感じる。
- 参加者：水素エネルギーの普及促進で、国や東京都からも補助金が出ているということだが、港区からも出ているのか。
- 事務局：確認しておく。
- 参加者：バイオディーゼル燃料について、京都市では家庭から出る油を回収して燃料にしているが、港区はどうか。
- 事務局：油は、区では拠点回収をして、燃料として再利用している。
- 参加者：墨田区では、いち早く燃料化して車を動かしている。
- 参加者：災害時、井戸があることは重要である。
- 参加者：水脈はあると思う。井戸があれば、いざという時に使える。
- 参加者：土壌汚染の問題ではなく、使い込んでいけば、使えるようになるということである。
- 参加者：アスファルト舗装を透水性舗装に変えると、雨水が地下に浸透して地下水になる。水脈があれば湧水になり、井戸にすれば活用できる。

- 参加者：地下水にはポテンシャルがあると思う。大阪市では、地下水を工業用に汲み上げ過ぎて地盤沈下が起きている。工業用に使っているのか。
- 参加者：製紙工場とかか。
- 参加者：雪国で温泉を流して雪を解かす事例がある。透水性、保水性の舗装で、地下に雨水が流れていけば、地表面温度の上昇を抑えられるのではないか。
- 参加者：そうすると、何でもかんでも古川に流れ込んで、臭いがひどいという問題も緩和されるかもしれない。
- 参加者：港区の道路の一割はそういうシステムになっていて、その部分の地表面温度は他よりも低いとなると、面白いと思う。社会実験的に行えると良い。
- 参加者：何年か前から打ち水を行っている。色々な場所で行われている。
- 参加者：芝浦水再生センターの水や民間企業が備蓄している水を使っている。上手く循環利用されていると思う。
- 参加者：新橋のクールスポットは、そういった実験的な意味がある。
- 参加者：水道水ではなく、飲めないと思うが、地下水を利用する。
- 参加者：マンションでは、プールの水を災害時の飲料水に使用しようということで、フィルターを利用することを想定している。運河の水は汚く、塩分もあってフィルターがつまる。運河の水でもフィルターが使えれば、運河の水も使える。
- 参加者：三菱重工が、海水から真水を作る深海6500を作った。
- 参加者：おそらくきれいな海水を採水している。
- 参加者：運河の水を飲み水にするのは難しいが、運河沿いの環境整備の次のステップとして、運河の水を利用して涼しい環境を創るというのは面白いと思う。水を流せば冷える。フィルターの問題があって現実的ではないかもしれないが、飲み水だと難しいものの、こういった利用なら良いのではないか。今は、運河と生活がかけ離れている。運河をオアシスにすると良いと思う。
- 参加者：打ち水をきれいな女性がやるのも良いが、水が流れていた方が良い。
- 参加者：表面を水が流れていると歩きたくなくなるので、地下数cmを流れると良い。コンクリートの上に軽石があって、軽石の下を水が流れているイメージ。
- 参加者：水辺の散歩道は良い。
- 参加者：品川シーズンテラスの写真がある。以前、藤棚のある公園がいくつかあったが、こういったオープンスペースの上部が緑化されていないのはもったいない。そこが緑になると、光合成によって温室効果ガスの削減にもなる。緑を立体的・平面的に増やせると良いのではないか。JR大阪駅のホームは、柱がない状態で屋根が覆っている。そんなイメージで緑化できると良い。21世紀版の藤棚を作る。
- 参加者：公開空地に木を植える発想はあっても、藤棚を作る発想はない。
- 参加者：シーズンテラスは、夏場は歩きたくない。ここに近代版の藤棚があると、歩いてみようと思う。涼しいと思う。
- 参加者：藤棚はランニングコストがかかりそうで、そこは心配である。全体が影になる必要はない。休めるところに影があると良い。
- 参加者：税金を使って社会実験してもらいたい。
- 参加者：水と緑の複合型の取組はやってもらいたい。

(ワークシートに書き出された意見)

○自然災害・沿岸域分野

- ・ハザードマップを作る／配ることが目的になっていないか
- ・理解しやすい、使いやすい、行動につながるハザードマップを作る

○健康分野

- ・高齢者は温度感覚が鈍くなる
- ・暑くても適応できる能力を引き出す
- ・リスクを“0”にするのではなく、適応する力を育む
- ・セキュリティ会社、宅配業者と連携して、高齢者の御用聞きサービスを展開する
- ・温度計付き緊急通報システムを配布する

○区民生活・都市生活

- ・港区の宣伝（プロモーション）効果は大きい
- ・暑くて外遊びができない
- ・暑すぎてプールができない
- ・品川シーズンテラス、真夏は暑くて利用できない
- ・子どもや高齢者が休憩できる木陰等が必要である
- ・藤棚（緑化）はランニングコストが大きい
- ・風の通り道を生かしたまちづくり
- ・道路や公園などの公共空間に屋根をつくる＋緑化する
- ・クールスポットを増やしたい
- ・運河の水を循環利用し、涼しく、水に親しめる、都会のオアシスにする
- ・プールの水を活用する、運河の水を活用する（フィルターのパフォーマンスが向上すれば活用できる）
- ・雨水を活用して気温（地表面温度）の上昇を防ぐ
- ・道路の舗装面の下に雨水を流し、地表面温度の上昇を防ぐ
- ・透水性舗装にする
- ・社会実験的に取り組む
- ・モデル地区を設定して、実証実験を行う

3 その他

第7回グループ会議は、テーマ3「気候変動の影響への適応」の具体的な事業、参画と協働の推進について議論することとし、12月24日（火）18:30～、開催場所は後日事務局から連絡することを確認した。また、テーマ2「緑や水辺の保全・創出」の議論のまとめ（案）に対して、意見等があれば12月20日（金）までに事務局に提出することとし、第7回グループ会議において、まとめ（案）への反映について議論することとした。なお、第6回グループ会議の会議録や模造紙まとめを事前に送付すること、必要な資料等があれば概ね1週間前までに連絡いただくことを確認した。

(閉会)

リーダーが、第6回グループ会議の閉会を告げ、終了した。

以上

みなとタウンフォーラム
環境・リサイクルグループ（第3グループ）

会議録（第7回）

■開催日時・場所・出席者

日 時：令和元年12月24日（火）18時30分～20時30分

会 場：港区役所9階 911会議室

メンバー参加者：5名

事務局：対応部門関係課長2名（環境課長、地球温暖化対策担当課長）、企画課グループ担当1名、サポートメンバー1名、委託事業者1名

■次第

（開会）

- 1 第6回グループ会議の振り返り
- 2 テーマ3「気候変動の影響への適応」に関する検討（後半）
- 3 テーマ2「緑や水辺の保全・創出」に関する検討（追加）
- 4 その他

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	第7回グループ会議の目的とタイムスケジュール
2	第6回グループ会議 会議録
3	テーマ3「気候変動の影響への適応」の議論のまとめ（イメージ）
4	テーマ3「気候変動の影響への適応」の関連資料
5	テーマ2「緑や水辺の保全・創出」の議論のまとめ（12/24最新版）
6	テーマ1「ごみ問題・資源循環」の議論のまとめ（12/24最新版）

■貸与資料

資料番号	資料名
1	港区基本計画・港区実施計画

■会議要旨

(開 会)

リーダーが、第7回グループ会議開催にあたっての挨拶及び開会宣言を行った。
事務局が、配布資料の確認を行った。

1 第6回グループ会議の振り返り

事務局が、資料3に基づき、第6回グループ会議の振り返りを行った。
リーダーが、資料2に関する意見等があれば事務局まで提出するよう、メンバーに連絡した。

2 テーマ3「気候変動の影響への適応」に関する検討（後半）

リーダーが、具体的な事業及び参画と協働の推進について意見交換を促した。

(主な意見等)

- 参加者：緊急通報システムへの熱中症対策機能のエンハンスとあるが、追加という意味か。
参加者：追加する、機能拡張するという意味である。
参加者：熱中症対策機能とは何か。
参加者：気温と湿度で、熱中症の危険度が分かるようにするなど。
参加者：危険度を色で表示できると良い。
参加者：光ファイバーケーブルを国境に引いていて、跨ごうとすると知らせられるシステムがある。これを活用できるかもしれない。
事務局：トイレに人感センサーを設置し、しばらくセンサーが反応しないと警備会社に通報する仕組みになっている。
参加者：緊急通報システムが作動した時、警備会社はどのように家の中に入るのか。
事務局：緊急通報システムを申し込む段階で、鍵を警備会社に渡している。
参加者：平常時はプライバシーや個人情報が大切だが、いざという時にはそれよりも命が重要である。そういった共通の考えが広まると良い。災害時、体が不自由な方のリストを提供してもらえず、助けに行けなかったという事例もある。
事務局：テーマ1から3までを同じ形で整理してみた結果、テーマ3については、気候変動の影響や適応策について知る・学ぶといったもう少し前提となる考え方もあると感じている。
参加者：「災害に備える」は、環境・リサイクルグループで議論する必要のないものではないかと感じている。防災グループの内容ではないか。
事務局：適応策の7分野には「自然災害・沿岸域分野」はあるが、内容を掘り下げるとなると防災グループかもしれない。
参加者：「熱中症に備える」についても、都市環境を改善するといったハード整備はあるが、熱中症リスクに負けない能力を育むといった内容は、ここになくても良いのではないか。
参加者：ハード整備はもちろん必要だが、ソフト面でもできることはある。
参加者：身体を鍛えるというような内容は良くないが、安全に暮らすための教育ということであれば良いと思う。
参加者：小学生は、安全のために大人からそんなことはすると言われていたりしている。これは違うと思う。適応できない大人になってしまう。

参加者：健康について話し合うグループはあるか。

事務局：福祉のグループはある。

参加者：各グループの検討状況が情報共有されることはあるのか。

事務局：テーマ1、2がそれぞれ終わった段階で、企画課内では各グループの検討内容を把握している。ただ、あくまで検討内容の共有であり、グループの枠を越えた検討を行っているとか、そういったことではない。

参加者：「災害に備える」に戻りたい。地震や津波に備えるということではなく、台風でもこれまでに経験したことがないものが襲ってくる環境になってしまっている。それは認識しなければならない。気候変動でこれまでにない災害が襲ってくる、そのために何をすべきか、やはり書く必要があるのではないか。

参加者：他のグループの検討状況を参加者が知ることはできるのか。例えば、防災グループでは今どんなことを検討しているのか。

事務局：担当者がどこまでまとめているか分からないので、すぐには分からない。前もって言っていただければ、準備できると思う。

参加者：このテーマはかなり広範囲にわたるので、関係するグループの検討状況は知りたい。

参加者：防災グループでは「公助」「共助」が中心だと思うが、ここでは「自助」が中心になると思う。すみ分けをして提言できると良い。

参加者：明確なすみ分けはできないかもしれない。重なる部分もあると思う。あとは書きぶりで、環境・リサイクルグループの内容っぽくすれば良い。

事務局：「熱中症に備える」も「安全で快適な暑熱環境を創る」も、どちらも夏季の高温に備えるもので、前者がソフト対策、後者がハード対策のようなイメージをしている。

参加者：個人がどう取り組むかを考えるのか、行政がどう取り組むかを考えるのか。

事務局：まずは、行政がどう取り組むのかを考える。また、区民・事業者にどのように取り組んでもらいたいのか、そのために行政は何をすべきかを考える。

参加者：教育は重要。知識がなければ対策ができない。

参加者：夏が暑い、これにどう備えるかに絞って検討するということが良いか。

参加者：他にどのようなことが考えられるのか。

事務局：分野としては、農業や自然生態系などもある。

参加者：地球温暖化には、寒暖の差が大きくなるということがある。メカニズム的には、温室効果ガスは気温の上昇につながる。

参加者：緑化を推進すれば、温室効果ガスを吸収して、気温上昇を抑えられるのか。

参加者：それは抑えられると思う。ただ、東京では都市化による気温上昇も加味されている。

参加者：新宿御苑は、夏場には3℃くらい気温が違うらしい。

参加者：新宿御苑の気温が低いということを知らない人もいる。どこが暑くてどこが涼しいか、そういった情報が知りたいと思う。緑があると気温上昇を抑えられる、こういったことをみんなが知れると良い。リアルタイムの気温情報が分かると良い。

参加者：メッシュで情報提供されると良い。

参加者：メッシュは難しいかもしれないが、各支所1か所くらいで情報提供されると良い。

参加者：新橋の打ち水をしている場所で気温を下げているのか。情報発信して欲しい。

事務局：1～2℃下がる効果はある。暑い時にやると逆に不快になる。

- 参加者：知ることが重要である。
- 参加者：練馬が暑いという話があるが、光が丘には大きな公園もある。それなのに暑い。
- 参加者：風が通るかなど、地形的な要因もある。単に緑があるだけではいけないということである。
- 事務局：品川駅前に4つ高層ビルが建つが、田町駅から2番目のビルは風の道があるので、50mの高さに抑えて、風が通るようにしている。
- 参加者：風の道を遮らないように指導をしているのか。
- 事務局：あまり積極的ではないものの、東京都ではやっている。港区でもまちづくりのガイドラインに示している。品川の開発でも、開発にとってもまちにとっても良いことになる。
- 参加者：最初に取り組んだのは、芝五丁目のNECかもしれない。
- 事務局：当時は、ヒートアイランドというよりビル風対策であった。
- 参加者：貿易センタービル建て替えでも考えると思う。
- 参加者：既に取り組んでいるのであれば、提言に入れなくても良いか。
- 事務局：改めて入れてもらっても良いし、入れなくても良い。
- 参加者：段々とコミュニティが希薄になっている。災害に備えて、コミュニティをつくることは重要である。
- 参加者：区営住宅も風の通り道を考えながら造っているのか。せっかく港区が造るのであれば、考慮されると良い。
- 参加者：公共施設では率先して考慮する。民間にも協力を求めるということであれば、このグループで提言できる。
- 参加者：パッシブハウス、色々取り組むとお金がかかる。
- 参加者：地下水を研究しているところもある。藤棚のところで打ち水をする、その打ち水に地下水を利用する、地下水冷却ベンチもあるらしい。こういったメニューの組み合わせをすると、気温も下がってインパクトもあるのではないかと。インパクトがあることをやれば、さらなる取組の引き金になる。
- 参加者：排熱を発電に使えないか。
- 参加者：詳しくはないが、かなり効率が悪いのではないかと。
- 参加者：排熱を発電に使えれば、都市型の取組になると思う。
- 参加者：大規模にやればペイできるかもしれない。
- 参加者：何か光るもの、次の取組につながるような、インパクトのあるものに取り組んでもらいたい。
- 参加者：いくつかの取組をやってみて、熱中症指標（WBGT）を調べて発信する。セットもので普及できると良い。
- 参加者：どこの通りが暑い、危険、涼しいとかが分かると良い。
- 参加者：政策研究所の環境分野があっても良い。そういったところが効果検証なんかでもできると良い。委託しても良い。
- 参加者：取組をして効果を測って、費用対効果を整理する。その先には、どこにどのような取組を行うべきかを考える。
- 参加者：公園だけでなく、公開空地でも取り組めると良い。

(ワークシートに書き出された意見)

- ・有事の際に助け合えるコミュニティづくり
- ・オートロックの家の中で連絡取れないと…
- ・温度、湿度、危険度を示す
- ・場所を絞って実証実験を行う
- ・地下水を活用する（ベンチに流す、建物内循環）
- ・マスコミと連携する
- ・調査、発信・共有する仕組み
- ・「この公園は〇℃低い」など情報発信
- ・風の通り道を意識したまちづくり
- ・マンション・ビル建設、風の通り道など、温熱環境に配慮する
- ・港区内、東京都内の温度分布を知りたい
- ・区内で夏場の快適な場所マップ
- ・打ち水、ミスト、前後の測定、効果を示す
- ・効果の定量化

3 テーマ2「緑や水辺の保全・創出」に関する検討（追加）

事務局が、資料5に基づき、テーマ2「緑や水辺の保全・創出」の議論のまとめ（12/24最新版）に対する参加者意見の説明を行った。

(主な意見等)

参加者：この表現では難しいというのは、理由も知らせて欲しい。

参加者：保全・創出は役所言葉。もう少し分かりやすい表現が良い。

(ワークシートに書き出された意見)

- ・緑と水辺と花があふれる港区
- ・みんなで（と）作る・育てる 心地よい緑と水空間
- ・うるおい生まれる緑と水辺

4 その他

第8回グループ会議は、環境・リサイクルグループからの提言書の内容について議論することとし、1月23日（木）18:30～、開催場所は後日事務局から連絡することを確認した。各テーマの議論のまとめに対して、意見等があれば随時事務局に提出することとした。なお、第7回グループ会議の会議録や各テーマの議論のまとめを事前に送付すること、必要な資料等があれば概ね1週間前までに連絡いただくことを確認した。

(閉会)

リーダーが、第7回グループ会議の閉会を告げ、終了した。

以上

みなとタウンフォーラム
環境・リサイクルグループ（第3グループ）

会議録（第8回）

■開催日時・場所・出席者

日時：令和2年1月23日（木）18時30分～20時30分

会場：港区役所9階 912会議室

メンバー参加者：4名

事務局：対応部門関係課長2名（環境課長、地球温暖化対策担当課長）、企画課グループ担当1名、サポートメンバー1名、委託事業者1名

■次第

（開会）

- 1 第7回グループ会議の振り返り
- 2 提言書のとりまとめについて
- 3 その他

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	第8回グループ会議の目的とタイムスケジュール
2	第7回グループ会議 会議録
3	各テーマの議論のまとめ（庁内確認版）
4	提言書（素案）

■貸与資料

資料番号	資料名
1	港区基本計画・港区実施計画

■会議要旨

(開 会)

リーダーが、第8回グループ会議開催にあたっての挨拶及び開会宣言を行った。
事務局が、配布資料の確認を行った。

1 第7回グループ会議の振り返り

事務局が、資料3に基づき、第7回グループ会議の振り返りを行った。
リーダーが、資料2に関する意見等があれば事務局まで提出するよう、メンバーに連絡した。

2 提言書のとりまとめについて

リーダーが、提言書のとりまとめについて意見交換を促した。

(主な意見等)

- 参加者：SDGsのゴールを意識して検討したことを記載できると良い。
- 参加者：最先端、学術的にも新しい取組にチャレンジしていくことを記載できると良い。
- 参加者：「ミナト」は「みなと」とする。
- 参加者：「いつでも意識、みんなで実践 分かりやすい分別でゴミが減るみなとの資源循環」としてはどうか。
- 参加者：プラスチックごみを減らすではなく、プラスチックの使用を減らすとしたい。マイボトルの利用促進についても触れたい。
- 参加者：重点的に取り組むものを明確にできると良い。
- 参加者：「心地良い暮らしに活かせるみなとの緑と水辺」としてはどうか。
- 参加者：豊かさを感じられる、実感できるという表現は良いと思う。
- 参加者：「気候変動に合わせた暮らしをつくるみなとの人とまち」としてはどうか。
- 参加者：気候変動の影響への適応は、気候変動への適応でも良い。

今後の予定として、1月31日までに事務局、参加者の双方で確認を行い、2月5日を目途に事務局で意見を集約・反映し、2月7日にメンバーにバックする、その後、リーダーとサブリーダーの確認を経て、2月14日に確定とする。

3 その他

提言式は、3月23日(月)18:30～、9階911～913会議室で開催することを確認した。提言書に対して、意見等があれば事務局に提出することとした。

(閉 会)

リーダーが、第8回グループ会議の閉会を告げ、終了した。

以上

